

北陸新幹線関係

埋蔵文化財包蔵地調査報告(9)

上梅沢遺跡	辻南遺跡
水橋金広・中馬場遺跡	HS-19（藏野町東）遺跡
北代一万歩遺跡	HS-20（藏野町）遺跡
吳羽富田町遺跡	小竹B遺跡
小竹貝塚	HS-21（駒方南）遺跡
HS-04・白石遺跡	下老子笠川遺跡
愛宕遺跡	江尻遺跡
安吉遺跡	開辟大滝遺跡
棚田遺跡	五社遺跡
本江大坪I遺跡	五社条里遺跡
下佐野遺跡	HS-22（水牧）遺跡
HS-18（諏訪）遺跡	HS-23遺跡

2009年3月

財團法人富山県文化振興財團
埋蔵文化財調査事務所

序

北陸新幹線は、経済の発展や生活領域の拡大、地域の振興を図ることを目的として建設が進められている新幹線鉄道です。現在長野・金沢間の建設工事が着工されており、北陸地方の発展及び活性化が期待されています。

当事務所では、北陸新幹線建設計画に伴い、平成8年度から独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構の委託を受け、新幹線建設予定地内の埋蔵文化財包蔵地について、その範囲等の確認調査を実施しています。

今年度、包蔵地確認調査を実施した遺跡は、滑川市上梅沢遺跡、富山市水橋金広・中馬場遺跡、北代一万歩遺跡、呉羽富田町遺跡、小竹貝塚、射水市HS-04・白石遺跡、愛宕遺跡、安吉遺跡、棚田遺跡、本江大坪I遺跡、高岡市下佐野遺跡、HS-18遺跡、辻南遺跡、HS-19遺跡、HS-20遺跡、小竹B遺跡、HS-21遺跡、下老子笛川遺跡、江尻遺跡、小矢部市開酵大滝遺跡、五社遺跡、五社条里遺跡、HS-22遺跡、HS-23遺跡になります。

その結果、各遺跡における埋蔵文化財包蔵地の範囲や、遺存状況を把握することができました。

この調査成果をまとめた本書が、私たち共有の財産である埋蔵文化財を理解していただく上で参考になれば幸いです。

最後に、今回の調査にあたり格別のご協力とご配慮をいただいた関係各位に深く感謝申し上げます。

平成21年3月

財團法人富山県文化振興財團
埋蔵文化財調査事務所
所長 岸本 雅敏

例　　言

- 1 本書は平成20年度に滑川市上梅沢遺跡、富山市水橋金広・中馬場遺跡、北代一万歩遺跡、呉羽富田町遺跡、小竹貝塚、射水市HS-04・白石遺跡、愛宕遺跡、安吉遺跡、棚田遺跡、本江大坪I遺跡、高岡市下佐野遺跡、HS-18遺跡、辻南遺跡、HS-19遺跡、HS-20遺跡、小竹B遺跡、HS-21遺跡、下老子笹川遺跡、江尻遺跡、小矢部市開跡大滝遺跡、五社遺跡、五社条里遺跡、HS-22遺跡、HS-23遺跡で実施した埋蔵文化財包蔵地の確認調査報告書である。
- 2 調査は富山県教育委員会の決定に基づき、財團法人富山県文化振興財団が独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構からの委託を受けて実施した。
- 3 調査は財團法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所が実施した。調査員は次のとおりである。
調査第一課　主任　青山　晃・細辻真澄・町田賢一　同埋蔵文化財技師　泉　英樹
- 4 本書の編集・執筆は、青山、細辻、町田が担当した。
- 5 遺物写真的撮影は調査第一課長補佐心得　島田美佐子が行った。
- 6 出土遺物及び記録資料は、埋蔵文化財調査事務所が一括して保管している。

目　　次

序	14	高岡市HS-19（藏野町東）遺跡	25	
例言	15	高岡市HS-20（藏野町）遺跡	27	
目次	16	高岡市小竹B遺跡	30	
I 位置と環境	1	17	高岡市HS-21（駒方南）遺跡	31
II 調査の経緯	2	18	高岡市下老子笹川遺跡	33
III 調査の概要	6	19	高岡市江尻遺跡	34
1 滑川市上梅沢遺跡	6	20	小矢部市開跡大滝遺跡	36
2 富山市水橋金広・中馬場遺跡	6	21	小矢部市五社遺跡	38
3 富山市北代一万歩遺跡	8	22	小矢部市五社条里遺跡	40
4 富山市呉羽富田町遺跡	8	23	小矢部市HS-22（水牧）遺跡	42
5 富山市小竹貝塚	8	24	小矢部市HS-23遺跡	44
6 射水市HS-04・白石遺跡	10	IV まとめ	49	
7 射水市愛宕遺跡	13	引用・参考文献	50	
8 射水市安吉遺跡	15	図面		
9 射水市棚田遺跡	17	写真		
10 射水市本江大坪I遺跡	19	報告書抄録		
11 高岡市下佐野遺跡	21			
12 高岡市HS-18（諏訪）遺跡	21			
13 高岡市辻南遺跡	25			

I 位置と環境

本年度に包蔵地確認調査を行ったのは、名のりかわ滑川市所在の上梅沢遺跡・かみうめざわいせき富山市所在の水橋金広・中馬場遺跡・かみうめざわいせき北代一万歩遺跡・呉羽富田町遺跡・小竹貝塚、かみうめざわいせき射水市所在のHS-04遺跡・白石遺跡・愛宕遺跡・安吉遺跡・棚田遺跡・本江大坪I遺跡、高岡市所在の下佐野遺跡・HS-18遺跡・辻南遺跡・HS-19遺跡・HS-20遺跡・呉羽B遺跡・HS-21遺跡・下老子篠川遺跡・江尻遺跡、小矢部市所在の開闢大溝遺跡・五社遺跡・五社条里遺跡・HS-22遺跡・HS-23遺跡の5市25箇所である。

これらの各調査区のうち滑川市上梅沢遺跡は、上市川右岸の早月川扇状地上に位置する。周辺遺跡は、西南に上梅沢館跡（中世）、西に有金館跡（中世）などが確認されている。

富山市水橋金広・中馬場遺跡は、富山市水橋金広地内と中馬場地内に所在し、常願寺川の下流部に形成された扇状地の扇端部に位置し、白岩川の右岸に立地している。遺跡内北端に若王子塚古墳（古墳前・中世）、宮塚古墳（古墳）、東に田伏・佐野竹遺跡（縄文～近世）などが確認されている。北代一万歩遺跡・呉羽富田町遺跡・小竹貝塚は、富山市北代から高木にかけて所在し、呉羽山丘陵から弧状に張り出した緩傾斜面のほぼ先端部に位置する。周辺遺跡は呉羽富田町遺跡と小竹貝塚の間に鷺ヶ森貝塚（縄文前期）、東に北代遺跡（縄文）などがみられる。

射水市HS-04遺跡・白石遺跡は小杉白石・鶯塚・大江・戸破地内にかけて所在し、下条川右岸に位置する。愛宕遺跡は高寺地内に所在する。周辺には南に戸破若宮遺跡（弥生・中世）、鶯塚遺跡（古墳）、針原東遺跡（弥生・中世）などが確認されている。安吉遺跡は射水平野の西端部に位置しており、新開発・赤井・安吉地内に所在する。周辺遺跡は、北に赤井遺跡（古代・中世）、東に本田天水遺跡（古代）、南に本田宮田遺跡（弥生後期・古墳・中世・近世）、西に二口遺跡（縄文後・晚期）などである。棚田遺跡と本江大坪I遺跡は、庄川によって形成された扇状地上に立地しており、棚田・二口地内に所在する。周辺には西に本江畑田I遺跡（弥生～古墳）、本江畑田II遺跡（弥生後期～近世）、北に二口油免遺跡（弥生後期～中世）、東に本田宮田遺跡（弥生中期～古代）などが確認されている。

高岡市下佐野遺跡とHS-18遺跡は、高岡市下佐野から諏訪佐野にかけて所在し、庄川が形成した扇状地の末端部に位置し、東側の千保川と西側の和田川に挟まれた微高地に立地している。周辺の遺跡としては、北側には奈良・平安時代を中心とした集落遺跡である東木津遺跡があり、南側には諏訪遺跡がある。辻南遺跡は高岡市辻内地内、HS-19遺跡とHS-20遺跡は藏野町地内に所在する。小竹B遺跡は小竹地内、HS-21遺跡は駒方地内に所在する。下老子篠川遺跡は高岡市の南端と旧福岡町の北端にまたがって位置し、福岡町一歩二歩に所在する。江尻遺跡は江尻地内に所在し、小矢部川と岸渡川と荒又川に挟まれた平地に立地する。周辺には、西に箕島遺跡（縄文・弥生・古墳・中世・近世）、南東には石塚遺跡（弥生中・古墳・古代・中世）などがある。

小矢部市開闢大溝遺跡は小矢部市五社に所在する。周辺の遺跡では南西約870mに木舟城（中世・近世）、北に大溝遺跡（中世・近世）がある。五社遺跡と五社条里遺跡は、小矢部市北東部の砺波平野北部に位置する。周辺には北に石名田木舟遺跡（弥生・奈良・平安・鎌倉・室町）、西に石動条里遺跡（古代・中世）、桜町遺跡（旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安・鎌倉）、桜町条里遺跡（古代・中世）などが確認されている。HS-22遺跡は水牧地内、HS-23遺跡は水牧・小神地内に所在する。周辺遺跡は南に金屋本江遺跡（奈良・中世）などである。

II 調査の経緯

北陸新幹線の建設が計画されたことに伴い、昭和60年度と平成7年度に富山県教育委員会の文化課（現県生涯学習・文化財室）・富山県埋蔵文化財センターが実施した分布調査によって、路線内に30箇所（県東部19箇所・県西部11箇所）の埋蔵文化財包蔵地が確認された。更に平成14年度に富山県埋蔵文化財センターが主体となった分布調査では、新たに県東部で4箇所の埋蔵文化財包蔵地が追加確認された。包蔵地確認調査は、平成8年度に小矢部市下川原遺跡で実施した。平成11年度以降は、県東部から包蔵地確認調査を順次実施しており、平成13年度新黒部・富山間の工事認可が下りるとともに、工事着工の急がれる新黒部以東においては、竹ノ内Ⅱ遺跡・柳田遺跡・下山新東遺跡・若栗中村遺跡・早月上野遺跡などの発掘調査を実施している。また富山以西においては、平成18年度の分布調査の結果、高岡市で4か所（HS-18遺跡・HS-19遺跡・HS-20遺跡・HS-21遺跡）、小矢部市で2か所（HS-22遺跡・HS-23遺跡）の新たな埋蔵文化財包蔵地を確認した。また、高岡市では4か所（HS-02遺跡・下佐野遺跡・辻南遺跡・小竹B遺跡）で遺跡の推定範囲が拡大した。本調査では下川原遺跡の発掘調査を実施している。

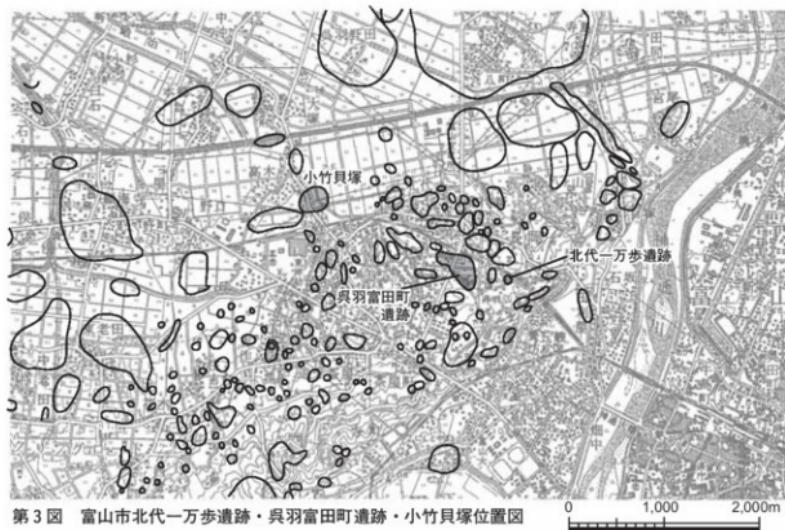
本年度は、東から滑川市上梅沢遺跡・富山市水橋金広・中馬場遺跡・北代一万歩遺跡・呉羽富田町遺跡・小竹貝塚・射水市HS-04遺跡・白石遺跡・愛宕遺跡・安吉遺跡・棚田遺跡・本江大坪Ⅰ遺跡、高岡市下佐野遺跡・HS-18遺跡・辻南遺跡・HS-19遺跡・HS-20遺跡・小竹B遺跡・HS-21遺跡・下老子篠川遺跡・江尻遺跡・小矢部市開酈大滝遺跡・五社遺跡・五社条里遺跡・HS-22遺跡・HS-23遺跡を対象に包蔵地確認調査を実施した。以下、各遺跡の概要を記す。

（細辻真澄）

調査結果一覧

遺跡名	調査期間（実働日数）	対象面積	掘削面積	遺跡の有無
上梅沢遺跡	H20.7.14・15（2日）	1,270m ²	39m ²	有（弥生～古墳・中世）
水橋金広・中馬場遺跡	H20.11.13（1日）	1,280m ²	80m ²	有（中世）
北代一万歩遺跡	H20.12.1（1日）	900m ²	50m ²	無
呉羽富田町遺跡	H20.12.4（1日）	740m ²	11m ²	無
小竹貝塚	H20.12.10（1日）	280m ²	42m ²	有（縄文）
HS-04・白石遺跡	H20.11.14～12.3・17（13日）	45,500m ²	1,206m ²	有（古墳・中世）
愛宕遺跡	H20.12.5～9（3日）	15,300m ²	648m ²	有（弥生～古代）
安吉遺跡	H20.12.2・3（2日）	7,200m ²	225m ²	有（中世）
棚田遺跡	H20.11.25（1日）	3,600m ²	180m ²	有（古代～中世）
本江大坪Ⅰ遺跡	H20.11.26～12.1（3日）	3,600m ²	261m ²	有（古代～中世）
下佐野遺跡	H20.11.19・12.4（2日）	13,500m ²	86m ²	有（古代～中世）
HS-18遺跡	H20.11.18・19・21（3日）	9,900m ²	155m ²	有（古代～中世）
辻南遺跡	H20.10.28～30（3日）	8,400m ²	218m ²	有（古墳～中世）
HS-19遺跡	H20.10.30・11.4（2日）	1,800m ²	108m ²	有（古墳～中世）
HS-20遺跡	H20.11.4～7（4日）	8,500m ²	516m ²	有（中世）
小竹B遺跡	H20.11.7・10（2日）	3,600m ²	200m ²	無
HS-21遺跡	H20.11.11～14（4日）	23,000m ²	291m ²	有（中世）
下老子篠川遺跡	H20.9.11・12・12.5（3日）	3,130m ²	135m ²	有（近世）
江尻遺跡	H20.10.21・22（2日）	5,070m ²	171m ²	有（弥生・近世）
開酈大滝遺跡	H20.10.20（1日）	2,040m ²	110m ²	有（中世）
五社遺跡	H20.10.6・7・20（3日）	4,500m ²	155m ²	有（古代）
五社条里遺跡	H20.10.2（1日）	5,400m ²	198m ²	有（古代～中世）
HS-22遺跡	H20.10.8～14・17（5日）	7,200m ²	414m ²	有（古代）
HS-23遺跡	H20.10.15～17・27（4日）	16,200m ²	464m ²	無

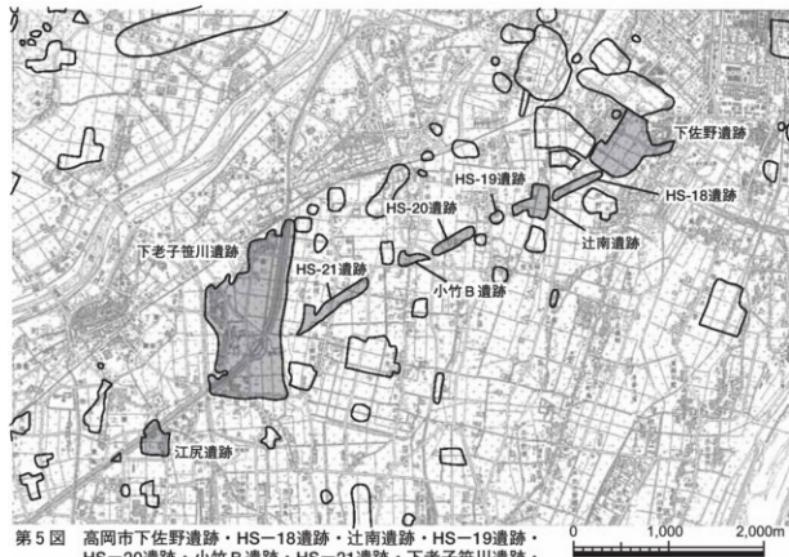




第3図 富山市北代一万歩遺跡・呉羽富田町遺跡・小竹貝塚位置図



第4図 射水市HS-04遺跡・白石遺跡・愛宕遺跡・安吉遺跡・棚田遺跡・本江大坪Ⅰ遺跡位置図



第6図 小矢部市開静大滝遺跡・五社遺跡・五社条里遺跡・
HS-22遺跡・HS-23遺跡位置図

III 調査の概要

1. 滑川市上梅沢遺跡

調査対象地

上梅沢遺跡は上市川右岸の早月川扇状地上に位置する。平成18年度には遺跡内の包蔵地確認調査対象地中央～西側でトレント（以下Tとする）を20箇所設定して、確認調査を実施した。その結果、本調査の必要は無いと判断された。今年度は、それよりも東側の範囲が調査対象地となった。現況は水田・畠・宅地で、標高は14.8～16.1mを測る。T21～23を設定した。

基本層序

層位	地層	土色・土質・層厚
I層	現耕作土・整地土・盛土	黒褐色砂質土（T21・22：30～60cm、T23：130～160cm）
II層	弥生～古墳時代遺物包含層	黒褐色砂質土（10cm）
III層	地山	灰色砂質土・にぶい黄褐色砂質土・灰オリーブ砂

調査結果

T21ではI層の直下でIII層が確認され、その上面で中世末～近世初頭の溝を検出した。

T22ではI層、II層、III層となる。II層は部分的にみられ、III層の上面で弥生時代後期～古墳時代初頭の溝を検出した。

T23では厚く堆積したI層直下でIII層となる。I層から古墳時代・中世の遺物が出土するが、混入したものと考えられる。遺構なし。

遺構・遺物の確認状況から、T21・22の680m²では本調査が必要である。また、T21とT22の間にあるトレント未設定の田面については、遺構の広がりはないものと推測され、本調査の必要はない。

なお、T22とT23の間にある宅地部分については、T22において検出された遺構の広がりを確認するため、家屋移転後に確認調査を実施する必要がある。

2. 富山市水橋金広・中馬場遺跡

調査対象地

水橋金広・中馬場遺跡は白岩川の右岸に位置する。確認調査は平成18・19年度にも実施しており、本調査必要範囲を平成19・20年度に発掘調査している。今回の調査対象地は、今年度本調査のA10地区西側に隣接した田面・宅地である。T15・T16を設定した。標高は8.5～8.8mを測る。

基本層序

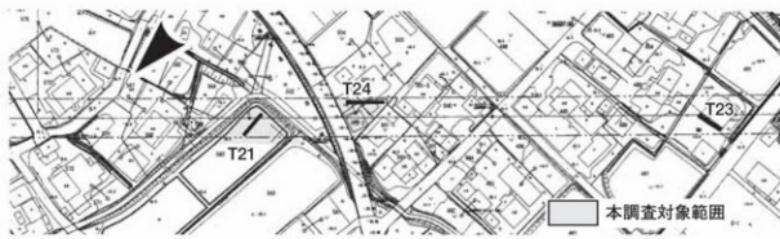
層位	地層	土色・土質・層厚
I層	現耕作土・盛土	灰黄褐色砂（T15：20cm、T16：30～60cm）
II層	中近世遺物包含層	黒褐色粘土質シルト（10cm）
III層	地山	灰オリーブ～灰色砂

調査結果

T15ではI層直下でIII層となり、遺構・遺物は確認されなかった。

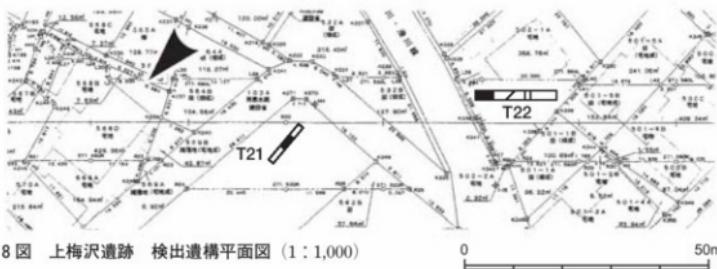
T16ではI層、II層、III層の順となる。III層上面で、II層が理土となる土坑・溝を検出した。土坑からは越中瀬戸、溝からは伊万里、II層中からは珠洲の出土がある。

以上の結果からT16の950m²で本調査が必要となる。また、遺跡東側に残る宅地部分（260m²）につ

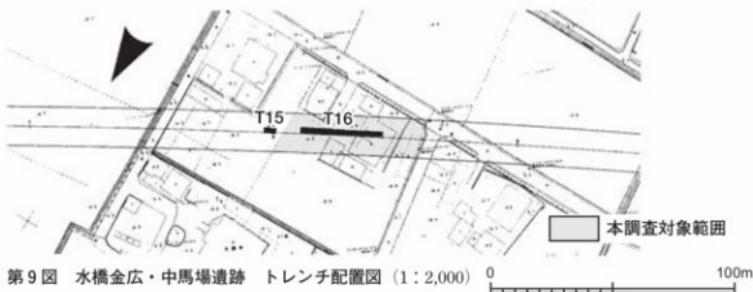


第7図 上梅沢遺跡 トレンチ配置図 (1:2,000)

0 100m



第8図 上梅沢遺跡 検出遺構平面図 (1:1,000)



第9図 水橋金広・中馬場遺跡 トレンチ配置図 (1:2,000)

0 100m



第10図 水橋金広・中馬場遺跡 検出遺構平面図 (1:1,000)

いても、今年度に本調査した隣接調査区の結果から、本調査が必要と判断される。

3. 富山市北代一万歩遺跡

調査対象地

北代一万歩遺跡は、呉羽丘陵の西側斜面に位置する。現況は宅地・畑地で、標高は21.7～22.9mを測る。T 1を設定し、確認調査を実施した。

基本層序

層位	地層	土色・土質・層厚
I 層	表土	灰黄褐色砂質シルト (50cm)
II 層	地山	灰黄色粘土質シルト

調査結果

I 層直下で II 層が確認される。遺構・遺物は無く、本調査の必要はない。

4. 富山市呉羽富田町遺跡

調査対象地

呉羽富田町遺跡は呉羽丘陵の西側斜面に位置している。今回は平成19年度確認調査範囲の東側を対象とした。現況は畑地で、標高は11.9～12.0mを測る。調査対象地は重機の進入が困難なため、人力により掘削を行った。約 2 × 2 m の T 5～7 を設定した。

基本層序

層位	地層	土色・土質・層厚
I 層	現耕作土	黒褐色粘土質シルト (30cm)
II 層	旧耕作土	黒褐色粘土質シルト (50cm)
III 層	地山	黄色粘土質シルト

調査結果

I 層、II 層、III 層の順となる。II 層から土器が出土するが、調査地が谷地形の底にあることから、高所からの流入と考えられる。III 層上面で遺構は確認されない。

調査結果から本調査の必要は無いと判断される。なお、当遺跡では平成19年度調査地の西側にも、確認調査を実施していないところがある。この未調査地については、平成19年度の調査結果と現況の地形が傾斜地であることから、本調査の必要は無いと判断される。

5. 富山市小竹貝塚

調査対象地

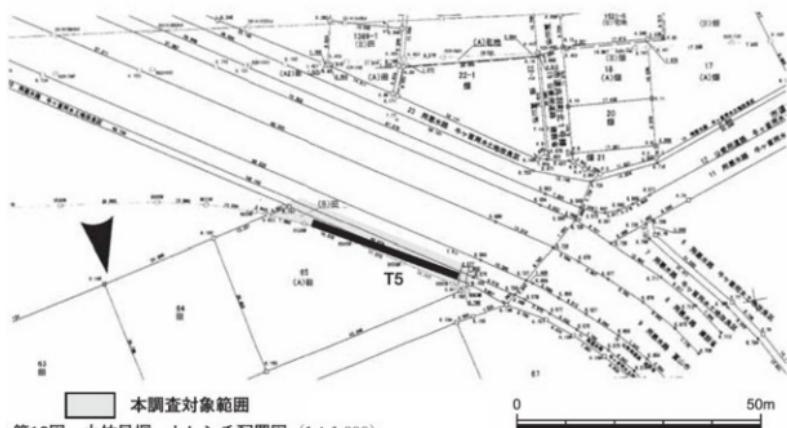
小竹貝塚は呉羽丘陵の西側斜面先端部に位置する。小竹貝塚では平成19年度に、今回の調査地より東側の水田で T 1～4 を設定し、確認調査を実施したが、本調査の必要はないと判断された。今回の調査地は水田・道路で、水田部分の標高は3.2mを測る。しかし、新鎌治川河川改良工事に伴う掘削が既に行われたため、標高2.4～2.5mの地盤高となっていた。T 5 を設定し、遺構検出面まで重機（バックホー）により掘削し、遺構・遺物の有無を確認する方法で調査を開始した。しかし、後述するように遺物を多量に含む包含層を確認したため、一部を除き、その遺物包含層上面までの掘削に止めた。



第11図 北代一万歩遺跡 トレーナー配置図 (1:1,000)



第12図 奥羽富田町遺跡 トレーナー配置図 (1:2,000)



第13図 小竹貝塚 トレーナー配置図 (1:1,000)

基本層序

層位	地層	土色・土質	北西端層厚	中央部層厚
I層	耕作土	黒褐色粘土	—	20cm
II層	縄文時代遺物包含層	暗灰黃褐色粘土	—	15cm
III層	縄文時代遺物包含層	黃灰色粘土	10cm	10cm
IV層	縄文時代遺物包含層	黒色粘土（遺物を多量に含む）	10cm	35cm
V層	縄文時代遺物包含層	黒色粘土	—	30cm
VI層	地山再堆積層	灰黃色粘土	20cm	—
VII層	地山	灰黃色粘土		

調査結果

I層は、河川改修工事によりすでに掘削された水田耕作土の残りである。II～V層は縄文土器の包含層で、特にIV層中に多量の土器片が含まれる。VI層はトレンチ北西端のみで確認された。地山となるVII層まで掘削したのはトレンチの中央部と北西端である。中央部ではI～V層が堆積し、VII層が確認される。VII層上面では標高1.4mを測る。トレンチ北西端では、III・IV層が堆積し、VII層は標高2.1mとなる。また、トレンチ南東端ではIV層上面までの掘削に止めたが、その上面の標高は中央部のそれよりも約30cm低くなっている。これらのことから、北西から南東に向かって低くなる谷状の地形が存在し、低地部分には遺物包含層が厚く堆積していると考えられる。

以上の結果から、調査対象範囲には縄文時代の遺物包含層が広がり、地山の高い箇所では当該期の遺構が存在する可能性がある。このため、240m²について本調査が必要と判断される。

6. 射水市HS-04遺跡、白石遺跡

調査対象地

HS-04遺跡と白石遺跡は、下条川右岸に位置する。調査対象地の現況は水田・宅地となる。標高は1.1～2.3mで、調査対象地の西から東に向かって緩やかに傾斜していく。T 1～25を設定した。この内、T 16・17が白石遺跡の範囲内に入る。

基本層序

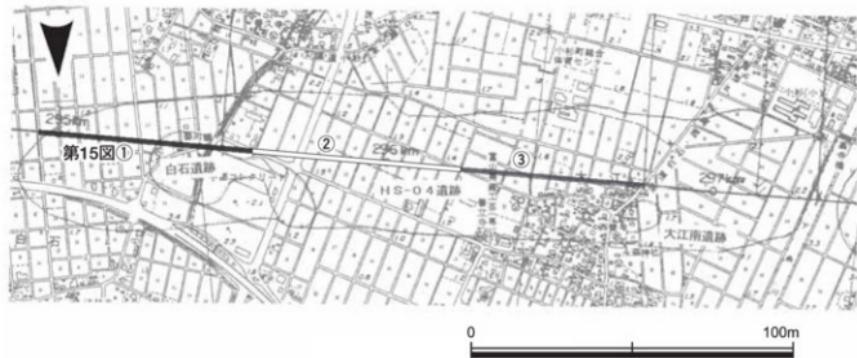
層位	地層	土色・土質・層厚
I層	耕作土	黒褐色粘土質シルト・砂（20～50cm）
II層	遺物包含層	黒褐色粘土質シルト（10cm）
III層	地山	灰黄～黄褐色粘土質シルト・粘土・砂質シルト（10～70cm）
IV層	地山	黒色粘土・粘土質シルト（10～20cm）
V層	地山	灰黄～灰黄褐色粘土質シルト（30～50cm）
VI層	地山	黒色粘土質シルト（30cm）
VII層	地山	灰褐色粘土

調査結果

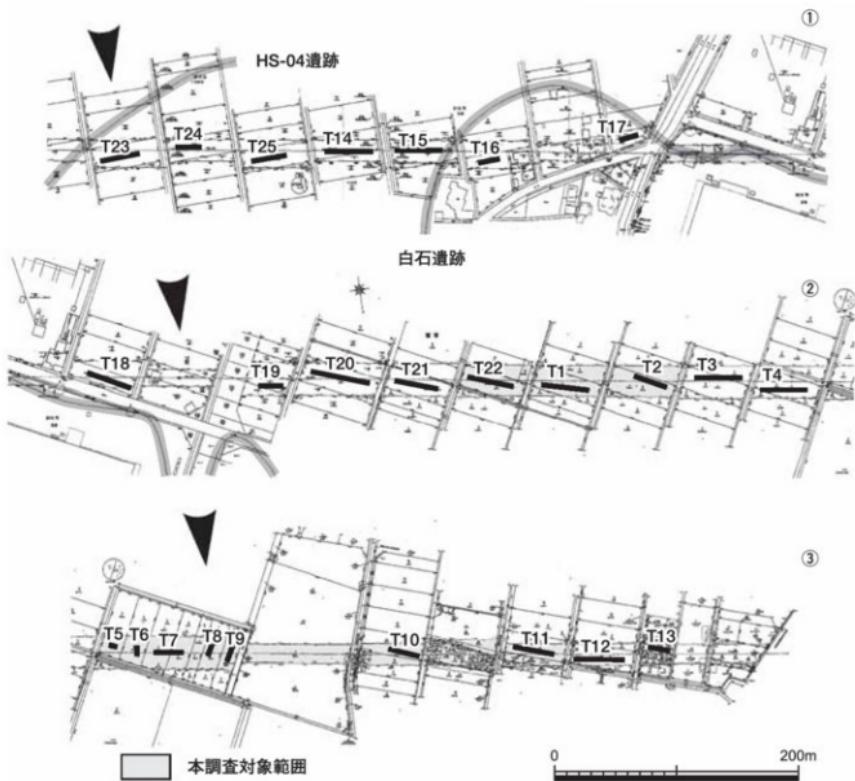
基本層の堆積は、I層の直下でIII層が確認されることが、各トレンチともに概ね共通している。III～VII層は地山で、灰色系と黒色系の粘土・粘土質シルトが互層に堆積している。遺物包含層となるII層はT 2・7～9で確認されたが、層厚10cmと薄い。

III層上面で溝・土坑などの遺構が確認されたのはT 1・2・7～11・22であった。また、T 5・6は欠番としているが、隣接するT 7の状況から遺構が広がると判断される。出土遺物は古墳時代の土師器、中世の珠洲・青磁・瓦質土器、近世陶器がある。

以上の結果から、T 1・2・5～11・22について、本調査が必要と判断される。また、T 10とT 11の間の未調査範囲も、遺構の広がる可能性が高く、本調査が必要となる。出土遺物の様相から、T



第14図 HS-04遺跡・白石遺跡 調査対象範囲 (1:15,000)



第15図 HS-04遺跡・白石遺跡 トレンチ配置図 (1:4,000)

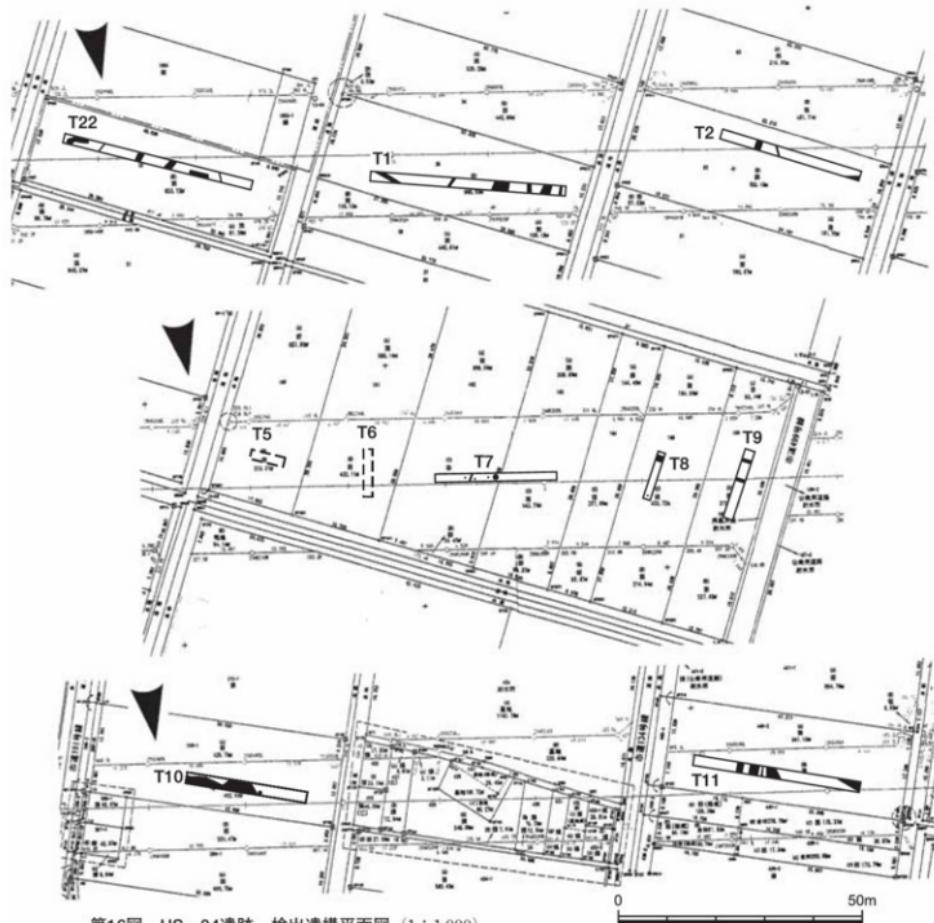
1・2・22付近は古墳時代、他は中世を主体とする時期の遺構が広がっていると推測される。

今回の調査結果に加えて、射水市教育委員会による、白石遺跡の平成2年度試掘調査結果からT17とT18の間に位置する企業敷地内の部分、さらに、大江グラウンド部分の平成10年度試掘調査結果から9Tと10Tの間に位置する範囲も本調査が必要と判断される。

以上、合計で12,120m²が本調査の対象となる。また、T22以西、T11以東の範囲については、射水市教育委員会と協議の上、所在地名から“大江遺跡”と呼称することとした。

なお、一般県道白石・西高木・戸破線より西側の範囲については、今後の確認調査が必要となる。

(青山 晃)



第16図 HS-04遺跡 検出遺構平面図 (1:1,000)

7. 射水市愛宕遺跡

調査対象地

愛宕遺跡は、射水市東部の射水平野中央部に位置する。旧放生津潟に注ぐ下条川と庄川の間に立地し、標高2.7~3.0mを測る。土地分類図では、三角州性低地・グライ土壤に分類される。『加越能三州地理志考』によれば当地は中世大袋庄に所属していた。遺跡は、東側に下条川をはさんでHS-04遺跡と西側に旧大島町境界をはさんで今開発東遺跡と接する。1996~1998年には射水市教育委員会が遺跡の北部で県営ふるさと農道建設に先立ち発掘調査を行っており、弥生時代後期~中世の遺構が見つかっている（原田1997~1999）。今回の確認調査対象範囲は、遺跡の中央部分にあたる一般県道堀岡・小杉線~今開発東遺跡間の射水市三ヶ字茶ノ本地内でトレンチを9本設定し、調査を行った。

基本層序

層位	地層	土色・土質・層厚	
		東側（T 1 ~ 6）	西側（T 7 ~ 10）
I 層	表土・盛土	黒褐色粘土質シルト（20~30cm）	暗オリーブ褐色シルト（10~30cm）
II 層	遺物包含層	灰黄褐色砂質シルト（15~40cm）	黒褐色シルト（10~25cm）
III 層	地山	黄灰色砂質シルト（30cm以上）	にぶい黄色砂質シルト（10~40cm）
IV 層	地山		灰黄色粘質土（30~35cm）
V 層	地山		オリーブ灰色粘土質シルト

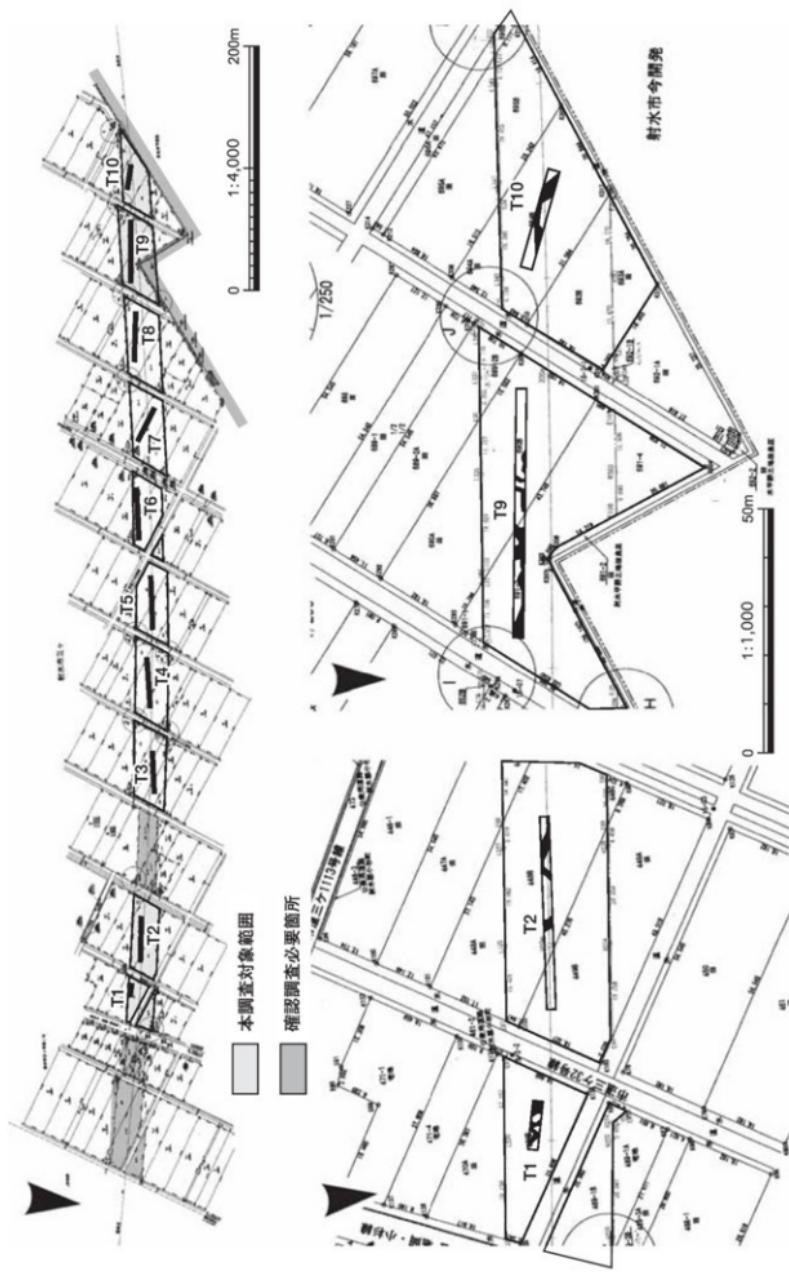
調査結果

調査対象地東端のT 1・2と西端のT 9・10で遺物包含層（II層）及び遺構（III層上面）を検出した。T 1では、溝3条・土坑2基を検出した。遺物包含層からは、弥生土器・土師器・須恵器・越中瀬戸・筋砥石が出土している。T 2では、溝2条・土坑3基を検出した。遺物包含層は、土質で上下に分層でき、上層からは土師器・珠洲・越中瀬戸、下層からは弥生土器・土師器・須恵器が出土している。遺構の埋土は、この下層と同質となっており弥生時代~古墳時代の遺構とみられる。これらの遺構は、調査対象地の北側で射水市教育委員会が1996~1998年に実施した発掘調査の結果と類似しており、この遺構群の続きと考えられる。

T 9では、溝2条・土坑4基・自然流路2を検出した。遺物包含層からは土師器が出土している。T 10では、トレンチ内をくの字状に走る溝1条を検出した。遺物包含層からは土師器が出土している。これらの遺構の時期は、出土遺物から古代とみられる。なお、T 10の西側には今開発東遺跡（確認調査未実施）が広がっておりこれとの関係が伺える。

T 3~8では、遺構は近世以降のほぼ南北に走る溝がある程度で遺物包含層は残っていなかった。また、III層（遺構検出面）より下層についても数か所で1m以上の深掘りを行ったが、旧潟湖（放生津潟？）埋積土とみられる粘質土（IV・V層）が堆積するだけで遺構・遺物は検出されなかつた。

以上の結果から、本調査を対象とする範囲は遺構・遺物包含層を検出したT 1・2・9・10を含む箇所に限定され、その面積はT 1・2の調査対象地東端部分で1,920m²、T 9・10の西端部分で2,700m²の合計4,620m²（1面）となる。本調査対象範囲における遺跡の時期は、弥生時代~古代と考えられる。また、用地未買収のため確認調査が実施できなかつた下条川~一般県道堀岡・小杉線間約2,880m²、T 2~3間約960m²の合計約3,840m²については今後確認調査を行う必要がある。



第17図 愛宕遺跡 トレンチ配置図 (1:4,000、1:1,000)

8. 射水市安吉遺跡

調査対象地

安吉遺跡は、射水市中央部で射水平野南西部に位置する。下条川と庄川水系の和田川にはさまれた微高地に立地し、標高6.5～6.8mを測る。土地分類図では、扇状地性低地・細粒グライ土壤に分類される。『加越能三州地理志考』によれば当地は中世東条郷に所属していた。遺跡は、1993年に富山県教育委員会が県営は場整備に伴う分布調査で“No15遺跡”(66,750m²)と仮称し、1994年に射水市教育委員会が試掘調査で中世～近世の遺跡とし“安吉遺跡”(271,000m²)と命名した(尾野寺1997)。遺跡の北側は、赤井西遺跡と接する。これまでに遺跡の中央部を射水市教育委員会が1998年に市道本田土合線拡幅改良工事、2004年に市道生源寺赤井線造成に先立って発掘調査を行い、中世の居館・集落を検出している(尾野寺1999・2005)。今回の確認調査対象範囲も遺跡中央部で射水市教育委員会調査地区に隣接し、市道大門針原線～市道安吉赤井線間の射水市安吉字明治・大正地内で、トレンチを4本設定し調査を行った。

基本層序

層位	地層	土色・土質・層厚	
		東側 (T 1・2)	西側 (T 3・4)
I 層	表土・盛土	黒褐色シルト (20～40cm)	暗灰黄色シルト (10～30cm)
II 層	遺物包含層	黒褐色シルト (5～30cm)	黄灰色シルト (10～30cm)
III 層	地山	黄灰色砂質シルト (20～25cm)	灰オリーブ色シルト (20～35cm)
IV 層	地山	緑灰色シルト	緑灰色シルト

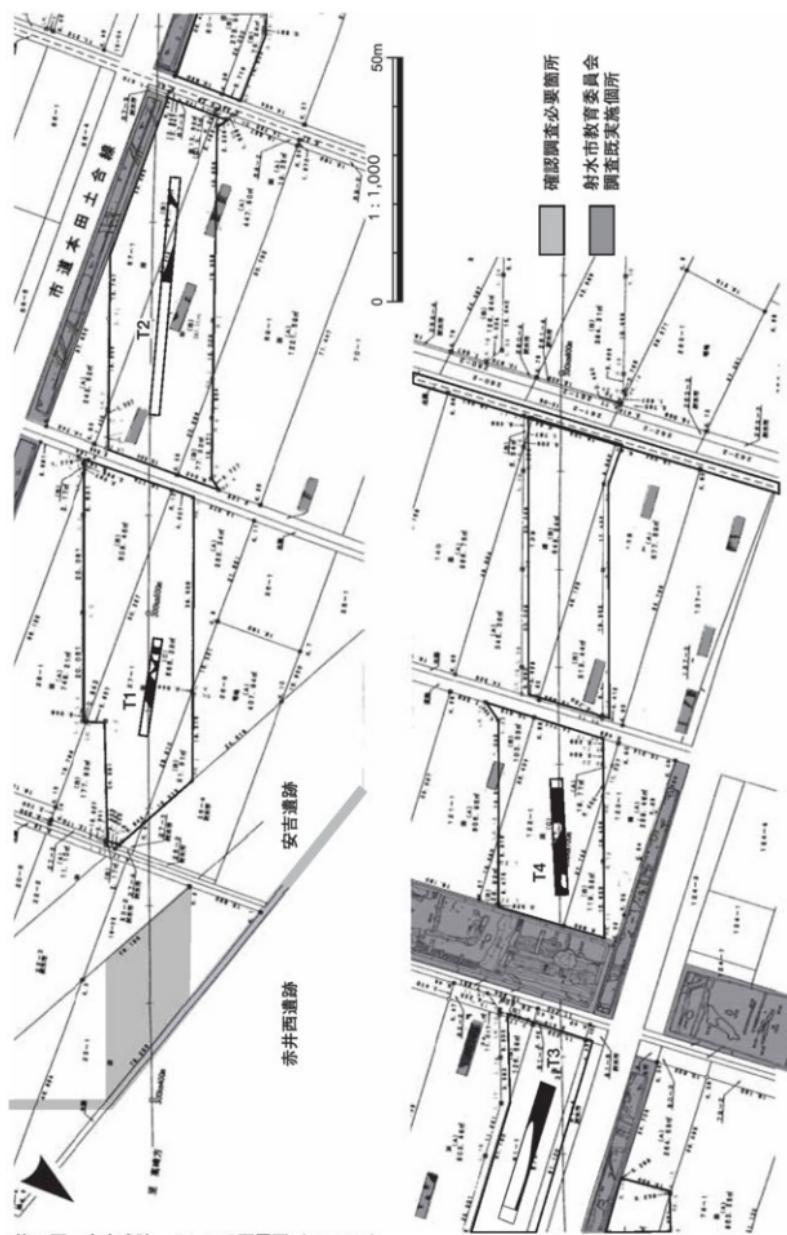
調査結果

調査対象地の全域(T 1～4)で遺物包含層(II層)及び遺構(III層上面)を検出した。T 1・2では、溝と土坑を検出した。溝は、南北方向とこれに直行する東西方向があり区画溝と考えられる。溝の幅は約60cmを測る。これらは、射水市教育委員会による市道本田土合線拡幅改良工事に伴う調査で検出された溝群と方位をほぼ同一にしておりこの統きとみられる。遺物は、遺物包含層から珠洲が出土している。

T 3・4では、トレンチの大部分を占める幅2m以上の大溝を検出した。この大溝は、射水市教育委員会による市道生源寺赤井線造成に先立つ調査で検出された居館を囲む大溝と方位をほぼ同一にしておりこの統きとみられる。遺物は、溝から珠洲・瀬戸美濃・越中瀬戸・板材が出土している。

III層(遺構検出面)より下層の状況は、数か所で1m以上の深掘りを行ったが、下条川や和田川などによる洪水層とみられシルト層(IV層)やビート層が堆積するだけで遺構・遺物は検出されなかつた。

以上の結果から、本調査を対象とする範囲は調査対象地の全域(T 1～4)で面積は5,820m²(1面)である。本調査対象範囲における遺跡の時期は、遺構出土遺物と射水市教育委員会の調査結果から中世後半(15～17世紀)とみられる。なお、トレンチを入れなかつたT 4～市道安吉赤井線間については射水市教育委員会による県営は場整備に伴う試掘調査の結果からこれに含むものとした。また、用地未買収のため確認調査が実施できなかつた市道大門針原線～赤井西遺跡間約380m²については今後確認調査を行う必要がある。



第18図 安吉遺跡 トレーニング配置図 (1:1,000)

9. 射水市棚田遺跡

調査対象地

棚田遺跡は、射水市の中央部で射水平野南西部に位置する。下条川と和田川にはさまれた微高地に立地し、標高7.4～7.9mを測る。土地分類図では、扇状地性低地・細粒グライ土壤に分類される。「加越能三州地理志考」によれば当地は中世東条郷に所属していた遺跡は、1992～1993年に富山県教育委員会が県営は場整備に伴う分布調査で“No 7～10遺跡”（44,850m²）と仮称し、1993年に射水市教育委員会が試掘調査で縄文時代～近世の遺跡とし“棚田遺跡”（101,000m²）と命名した（尾野寺1997）。遺跡の西側には、市道八塚串田線やつづなせんをはさんで本江大坪Ⅰ遺跡と接する。今回の確認調査対象範囲は、遺跡の中央部分で市道市井二口線～市道八塚串田線間の射水市棚田地内で、トレンチを2本設定し調査を行った。

基本層序

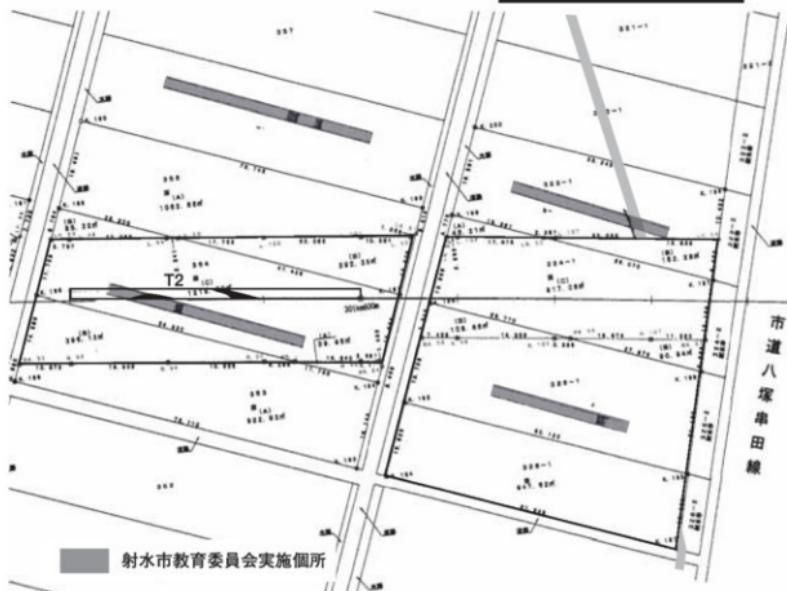
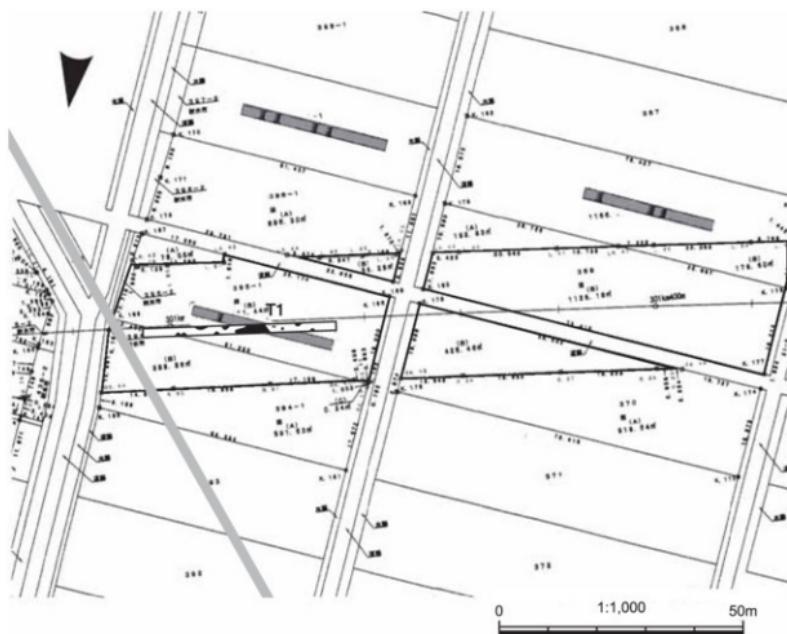
層位	地層	土色・土質・層厚
I層	表土・盛土	黒褐色シルト (10～40cm)
II層	遺物包含層	黒褐色シルト (10～20cm)
III層	地山	にぶい黄色粘土質シルト (10～50cm)
IV層	地山	黄灰色粘土シルト (10～40cm)
V層	地山	灰色粗砂 (25～30cm)
VI層	地山	暗灰黄色粘土質シルト

調査結果

調査対象地の全城（T 1・2）で遺物包含層（II層）及び遺構（III層上面）を検出した。T 1では、II層を埋土とする土坑18基・小ビット5基を検出した。土坑には、長軸2m以上の大型と1m以下の小型があり、これらがトレンチ内に足の踏み場もないほど密に検出された。遺物は、表土・盛土から土師器・唐津が出土している。T 2では、直行する溝2条・土坑2基・小ビット31基を検出した。土坑は、長軸3m以上の大型1基と50cm程度の小型5基からなる。小ビット群は、直径20cm程度で1993年に射水市教育委員会が試掘調査で検出した奈良時代～中世の柱穴状小ビットと同様と考えられる。遺物は、表土・盛土から越中瀬戸が出土している。

III層（遺構検出面）より下層の状況は、3か所で1m以上の深掘りを行ったが、下条川や和田川などによる洪水層とみられシルト層（IV・VI層）や砂層（V層）が堆積するだけで遺構・遺物は検出されなかった。

以上の結果から、本調査を対象とする範囲は調査対象地の全城（T 1・2）で面積は8,340m²（1面）である。なお、トレンチを入れなかったT 2～市道八塚串田線間については射水市教育委員会による県営は場整備に伴う試掘調査でその範囲で遺構が検出されていることからこれに含むものとした。遺跡の時期は、今回検出した遺構からは明確な時期を示す遺物が出土していないが、調査対象地近辺の射水市教育委員会の試掘結果から奈良時代～中世とみられる。



第19図 棚田遺跡 トレンチ配置図 (1:1,000)

10. 射水市本江大坪 I 遺跡

調査対象地

本江大坪 I 遺跡は、射水市の中央部で射水平野南西部に位置する。下条川と和田川にはさまれた微高地に立地し、標高7.9~8.4mを測る。土地分類図では、扇状地性低地・細粒グライ土壤に分類される。『加越能三州地理志考』によれば当地は中世東条郷に所属していた。遺跡は、1993年に富山県教育委員会が県営ほ場整備に伴う分布調査で“No13遺跡”(63,250m²)と仮称し、1994年に射水市教育委員会が試掘調査で奈良時代～中世の遺跡として“本江大坪 I 遺跡”(61,000m²)と命名した（尾野寺1997）。遺跡の東側には市道八塚串田線をはさんで棚田遺跡、西側には市道柳町大門本江線をはさんで本江畠田 I 遺跡と接する。今回の確認調査対象範囲は、遺跡の中央部分で西部1号用水路～市道柳町大門本江線間の大門本江字大坪・中村地内で、トレーンチ4本を設定し調査を行った。

基本層序

層位	地層	土色・土質・層厚
I 層	表土	灰黄褐色粘土質シルト (10~40cm)
II 層	遺物包含層	黒褐色粘質土 (10~30cm)
III 層	地山	灰オリーブ色粘質土 (15~20cm)
IV 層	地山	灰オリーブ色粗砂

調査結果

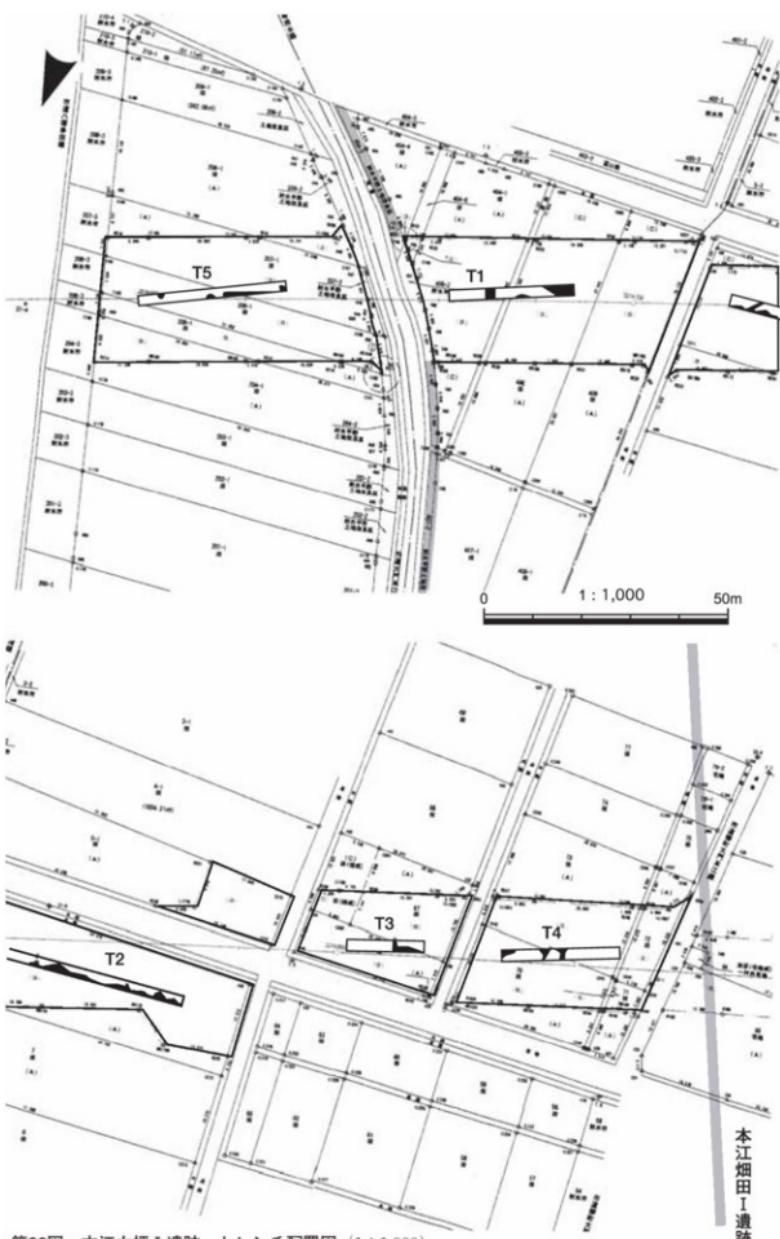
調査対象地の全域（T 1 ~ 4）で遺物包含層（II層）及び遺構（III層上面）を検出した。T 1 では、トレーンチ西端で東西方向に走る幅約1mの溝1条・土坑6基・小ビット群を検出した。土坑は、長軸約50cm~2mと各種サイズがあるがその多くがトレーンチ外に出ており全容は不明である。ビット群は、形状が類似しており棚田遺跡と同様のものと考えられる。T 2 では、溝4条・土坑14基・小ビット群を検出した。溝には、南北方向に走る幅約1mのものと東西方向に走る幅2m以上の大型がある。T 3 では、自然流路の可能性がある蛇行する溝1条・南北方向に走る幅約40cmの溝1条・土坑2基・小ビット群を検出した。T 4 では、溝2条・土坑3基・小ビット群を検出した。溝は、南北方向に走るもので幅約1mありT 3 の溝と並行する。遺物は、T 3 の土坑から土師器、T 4 の遺物包含層から土師器・板材が出土している。

調査対象地の東側で西部1号用水路～市道八塚串田線間については、本来の遺跡範囲には含まれていなかったがT 1 の遺構の広がりと東に隣接する棚田遺跡のありかたから新たにトレーンチT 5 を設定し、確認調査を行った。その結果土坑5基と小ビット群が検出され、遺物包含層も残っていたことからT 1 ~ 4 の状況と同様な遺跡の広がりがあるものと考えられる。

また、III層（遺構検出面）より下層については数か所で1m以上の深掘りを行ったが、下条川や和田川などによる洪水層とみられ砂層（IV層）が堆積するだけで遺構・遺物は検出されなかった。

以上の結果から、本調査を対象とする範囲は調査対象地の全域（T 1 ~ 5）で面積は5,460m²（1面）である。遺跡の時期は、今回検出した遺構からは明確な時期を示す遺物が出土していないが、調査対象地近辺の射水市教育委員会の試掘結果から奈良時代～中世とみられる。

（町田賢一）



第20図 本江大坪I遺跡 トレンチ配置図 (1:1,000)

11. 高岡市下佐野遺跡

調査対象地

下佐野遺跡は、東側の千保川と西側の和田川に挟まれた微高地に立地している。対象地の現況は水田と畠である。標高は9.6m～12.1mを測る。トレンチは東側からT4、T5、T2となる。

基本層序

層位	地層	土色・土質・層厚
I 層	現耕作土	オリーブ黒色砂質シルト・暗灰黄色砂質シルト（15～35cm）
II 層	遺物包含層	黒色シルト・黒褐色シルト（5～20cm）
III 層	地山	灰オリーブ粘質シルト・にぶい黄色シルト（10～30cm）
IV 層	下層包含層？	オリーブ黒色シルト（15～80cm）
V 層	地山？	にぶい黄色砂質シルト・オリーブ灰色砂質シルト

調査結果

出土遺物は土師器と珠洲などで、遺構は溝を3条、土坑5基をIII層上面で確認している。T2から西側は、路線近隣で主要地方道高岡環状線改良工事に伴う発掘調査が富山県埋蔵文化財センターによって行われており、弥生時代後期から古墳時代前期、古代、中世、近世の遺構や遺物が確認されている。T2から西側もこれらの遺構の続きが広がる可能性が高いため本調査必要範囲とした。またT4・T5の深掘りした部分から土坑を2基検出しており、一部に下層が存在する可能性があると思われる。

以上から本調査を必要とする範囲は、古代～中世の遺構・遺物を確認した下佐野遺跡のT4からT2の西側の11,420m²である。

12. 高岡市HS-18（諏訪）遺跡

調査対象地

調査対象地は庄川が形成した扇状地の末端部に位置し、現況は水田と畠である。標高は12.42m～13.16mを測る。

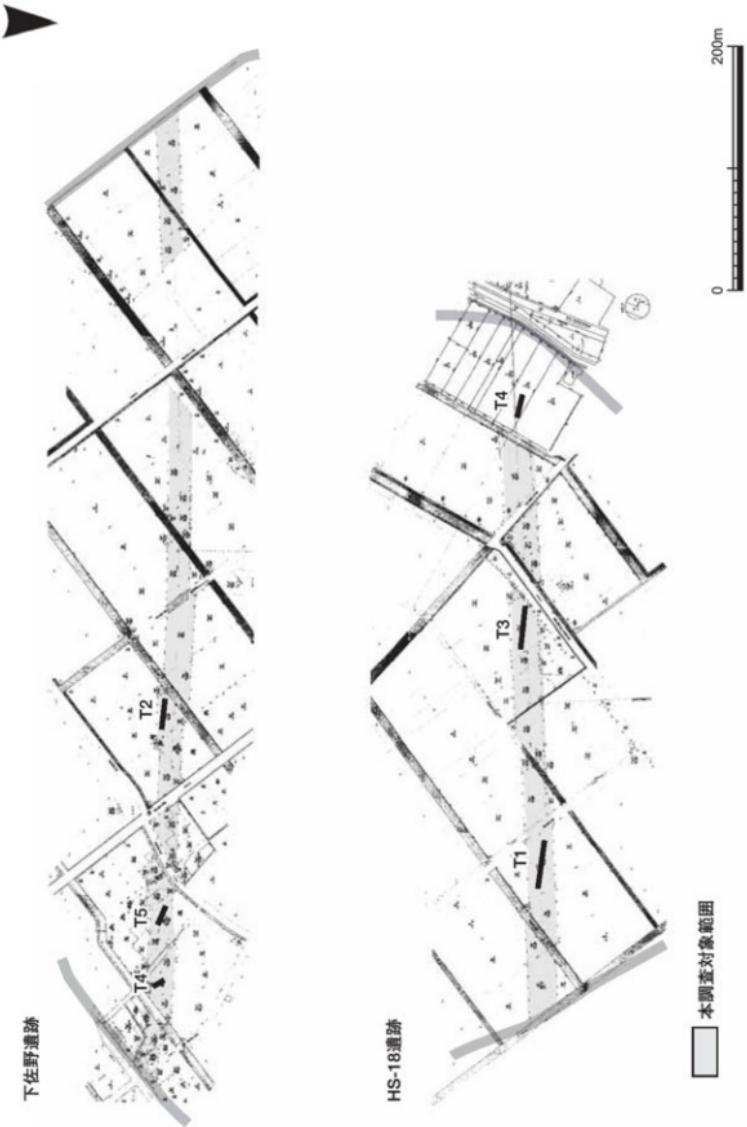
基本層序

層位	地層	土色・土質・層厚
I 層	現耕作土	黒褐色シルト・暗灰黄色シルト（20～35cm）
II 層	地山	灰色粘質シルト（20～80cm）
III 層	旧河川堆積層	オリーブ黒色砂質シルト（40～50cm）
IV 層	旧河川堆積層	黒褐色粘質シルト

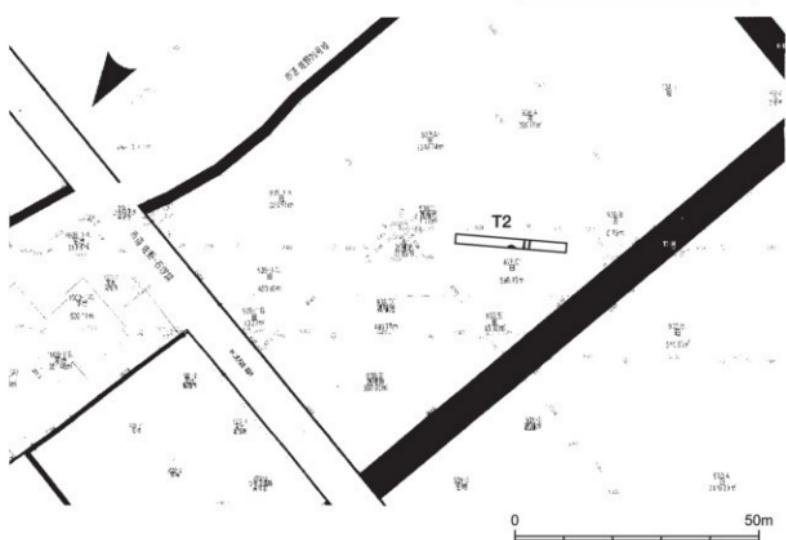
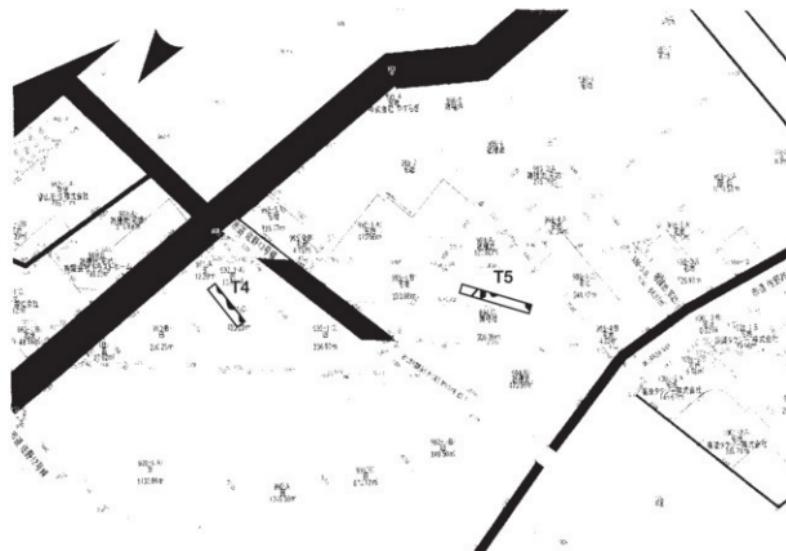
調査結果

遺物包含層はなく、T1・T3の耕作土から漆器の破片が出土した。遺構は溝7条、土坑31基、流路1条をII層上面で確認している。T4は耕作土直下に近世以降の流路を確認したのみで、出土遺物は土師器の小破片のみである。

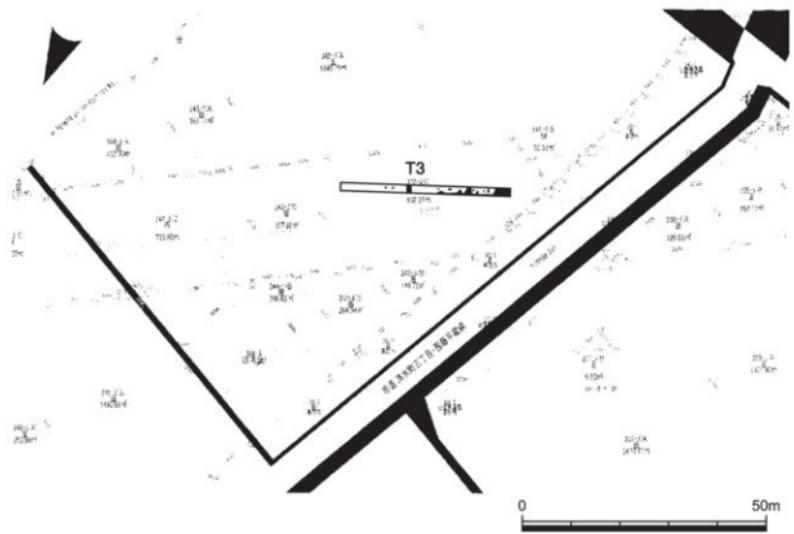
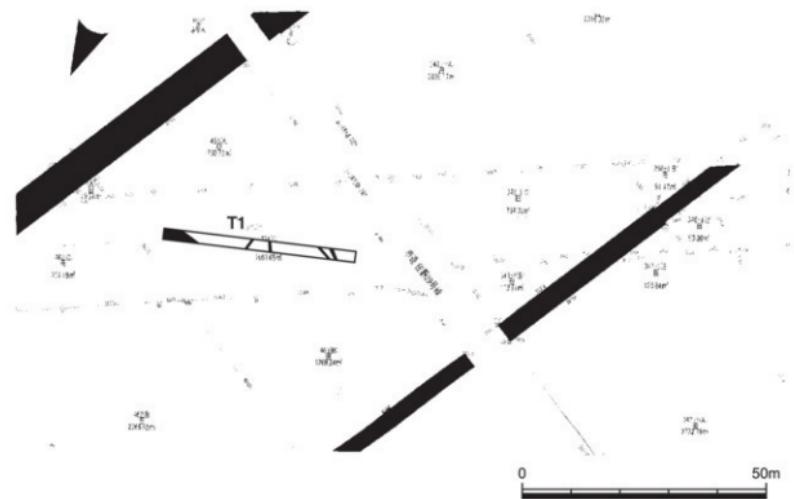
以上から本調査を必要とする範囲は、古代～中世の遺構・遺物を確認したT1～T3の9,030m²である。HS-18遺跡のT4は遺構がみられず、出土遺物も少ないと判断した。遺跡の名称は、高岡市教育委員会と協議の上、所在地名から“諏訪遺跡”とした。



第21図 下佐野遺跡・HS-18遺跡 トレンチ配置図 (1:4,000)



第22図 下佐野遺跡 検出構造平面図 (1:1,000)



第23図 HS-18遺跡 検出造構平面図 (1:1,000)

13. 高岡市辻南遺跡

調査対象地

辻南遺跡は、高岡市辻地内に所在する。対象地の現況は水田と畑である。標高は13.08m～13.58mを測る。調査は幅約1.8m、長さ5～35mのトレンチを調査対象地区内に6本設定した。

基本層序

層位	地層	土色・土質・層厚
I 層	現耕作土	黄灰シルト・オリーブ褐色シルト・黒褐色砂質シルト（20～60cm）
II 層	地山	黄褐色砂質シルト・暗灰黄シルト（10～40cm）
III 層	旧河川堆積層	黒色粘質シルト（40～100cm）
IV 層	地山礫	

調査結果

T4～T6は、遺物包含層がなく、耕作土や遺構から古墳時代の須恵器・土師器・たも状木製品などが出土した。遺構は溝2条、土坑を4基、流路1条をII層上面で確認している。T1～T3は、耕作土直下にピートや砂などによる互層が1m堆積しており、自然堆積の様相がみられる。出土遺物は土師器の小破片を数点確認したのみで、遺構の検出はなかった。

以上から本調査を必要とする範囲は古墳時代～中世の遺構・遺物を確認したT4～T6の1,930m²である。なお、T1～T3は遺構がみられず、出土遺物も少ないと判断した。

14. 高岡市HS-19（蔵野町東）遺跡

調査対象地

調査対象地は辻南遺跡の西隣に位置し、蔵野町地内に所在する。現況は水田と畑である。標高は13.96m～14.07mを測る。調査は幅約1.8m、長さ10～30mのトレンチを調査対象地区内に3本設定した。また、T3は遺跡範囲外であったが、辻南遺跡とのつながりを確認するために設定した。

基本層序

層位	地層	土色・土質・層厚
I 層	現耕作土	暗灰黄シルト（20～40cm）
II 層	地山	オリーブ黄色シルト

調査結果

T1～T3は遺物包含層が確認されなかった。辻南遺跡の統きとみられる遺構が溝7条、土坑7基、柱穴1基II層上面で検出した。遺物は出土していない。

以上から本調査を必要とする範囲は古墳時代～中世の遺構・遺物を確認した辻南遺跡の統きとみられるT1～T3の5,080m²である。遺構の時期は、HS-19遺跡の分布調査で中世土師器や珠洲などが確認されていることから古墳時代～中世と思われる。当遺跡は辻遺跡の西隣に位置しているが、立地などから別の遺跡とされ、遺跡の名称は、高岡市教育委員会と協議の上、所在地名から“蔵野町東遺跡”とした。



第24図 江南遺跡・HS-19遺跡 トレンチ配置図 (1:4,000)



第25図 江南遺跡 検出遺構平面図 (1:1,000)



第26図 HS-19遺跡 検出遺構平面図 (1:1,000)

15. 高岡市HS-20（蔵野町）遺跡

調査対象地

HS-20（蔵野町）遺跡は東西に庄川と小矢部川で挟まれている。祖父川東隣の微高地に位置しており、蔵野町地内に所在する。祖父川を挟んだ西側には小竹B遺跡が隣接している。対象地の現況は水田と畑である。

標高はT 2～T 4が14.00m～14.36m、T 1・T 7・T 8は13.69m～13.89m、T 5・T 6・T 9は13.07m～13.50mを測り、中心部分が高く、東西にかけて緩やかに低くなっている。幅約1.5～1.8m、長さ8～70mのトレンチを調査対象地区内に9本設定した。

基本層序

層位	地層	土色・土質・層厚
I層	現耕作土	暗灰黄砂質シルト（20～40cm）
II層	地山	灰黄シルト・灰オリーブ砂質シルト（30～60cm）
III層	旧河川堆積層	オリーブ黄色シルト（10～30cm）
IV層	旧河川堆積層	灰色砂質シルト（10～50cm）
V層	旧河川堆積層	灰色粘質シルト（40～65cm）
VI層	旧河川堆積層	黒色シルト

調査結果

調査対象地の中央部分であるT 1～T 3・T 7・T 8は遺物包含層がみられなかった。遺構はII層上面で確認した。T 1は耕作土が20～40cm堆積しており、溝5条、土坑2基を検出した。東側の溝から珠洲などが出土している。T 2・T 3は耕作土が20～40cm、耕作土直下に灰オリーブ砂質シルトや灰色砂、灰色粘質シルトなどが互層となって約1.5m堆積している。粒子の粗い川砂やオリーブシルトにより構成され、幾度もの河川の氾濫・滞水などによって形成されたと考えられる。これらの堆積上で溝6条、土坑5基を確認している。出土遺物はみられなかった。T 7・T 8は耕作土が20～30cm堆積しており、遺構は溝7条、土坑4基を確認している。遺物は出土していない。T 2・T 3・T 7・T 8は出土遺物がみられなかつたが、T 1の続きとみられる遺構を確認しているため、中世の遺構が広がっているものと思われる。

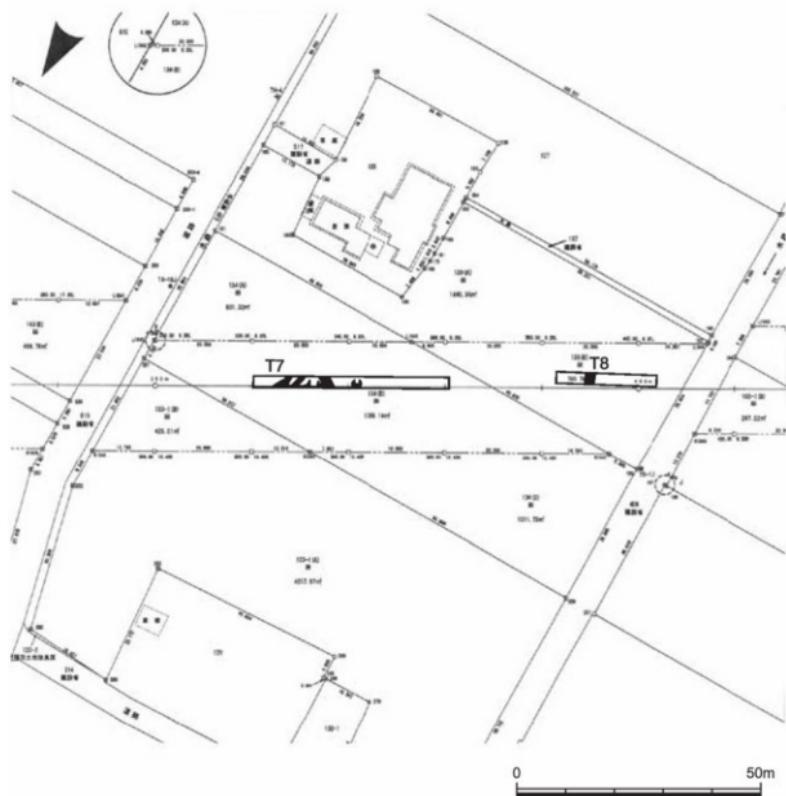
西端のT 4・T 5と東端のT 6・T 9は、耕作土直下には場整備に伴うと思われる盛土（20～60cm）により削平をうけている部分が多くみられた。T 9の東端では1m近くの擾乱がみられた。遺構は近世の溝2条のみで、遺物は出土しなかつた。

以上から本調査を必要とする範囲は、中世の遺構・遺物を確認したT 1～T 3・T 7・T 8の6,890m²である。T 4～T 6・T 9は検出遺構が少なく、出土遺物がないことから本調査の必要はない判断した。なお、遺跡の名称は高岡市教育委員会と協議の上、所在地名から“蔵野町遺跡”とした。



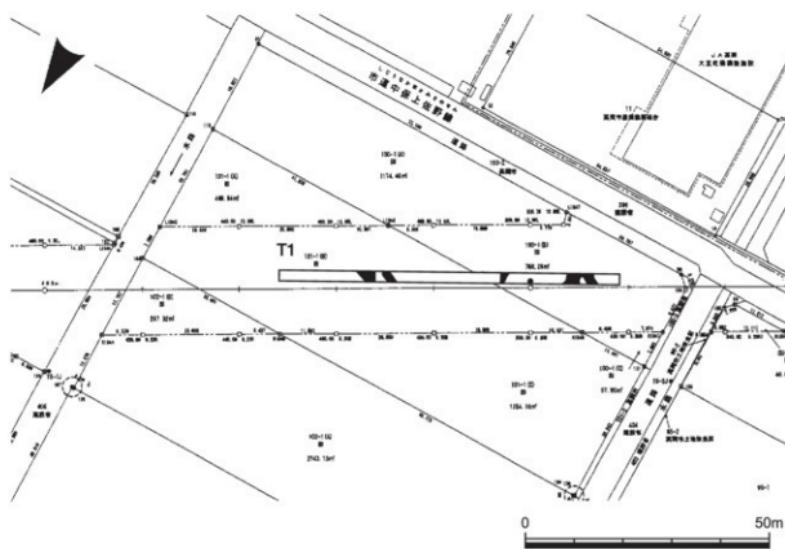
第27図 HS-20遺跡 トレーニング配置図 (1:4,000)

0 200m



第28図 HS-20遺跡 検出造構平面図1 (1:1,000)

0 50m



第29図 HS-20遺跡 検出造構平面図 2 (1:1,000)

16. 高岡市小竹B遺跡

調査対象地

小竹B遺跡は小竹集落の北側、祖父川西隣の微高地に位置し、小竹地内に所在する。現況は水田と畑である。

標高はT3・T4が12.33m～13.29m、T1・T2・T5が11.20m～11.86mを測る。中心部分が高く、東西にかけて低くなっている。調査は幅約1.5～1.8m、長さ10～50mのトレンチを調査対象地区内に5本設定した。

基本層序

層位	地層	土色・土質・層厚
I a層	現耕作土	暗灰黄シルト・灰オリーブ砂質シルト(20～40cm)
I b層	盛土	灰オリーブ粘質シルト・黄灰砂質シルト(20～70cm)
II層	旧河川堆積層	オリーブ黒色砂質シルト(15～20cm)
III層	旧河川堆積層	オリーブ灰色砂質シルト(20～30cm)
IV層	旧河川堆積層	オリーブ黒色粘質シルト

調査結果

土層は耕作土直下に砂や砂礫などが堆積し、自然堆積の様相がみられる。T1・T2は耕作土約30～40cm堆積しており、遺構は近世の溝1条のみで、遺物は出土しなかった。T3は耕作土直下に盛土があり、ほ場整備による削平をうけている。遺構は近世の流路1条で、出土遺物は近世陶磁器の小破片などである。T4は検出遺構が土坑1基のみで、出土遺物はなかった。T5は西側に近世の流路が1条みられた。出土遺物はない。

以上から小竹B遺跡のT1～T5は、遺構は検出したものの、その遺構の性格・範囲を特定する材料に乏しいため、本調査の必要ないと判断した。



第30図 小竹B遺跡 トレンチ配置図 (1:2,000)

0 100m

17. 高岡市HS-21（駒方南）遺跡

調査対象地

HS-21（駒方南）遺跡は高岡市の市街地より7～8km南西に位置する海拔15～17mの、庄川扇状地末端に位置している。この扇状地の末端は、庄川と小矢部川によって側方浸食され小さな崖状地形を作りだしている。遺跡はこの崖上にあり、この台地は内部をさらに小河川によって開析され、小さな谷地形をなしている。現在は、ほ場整備によってこの谷地形はほとんど削平されている。対象地の現況は水田と畑である。

遺跡の範囲が東西約900mあり、東側の駒方地区と西側の上開発区に分かれる。標高は東端からT1・T2が14.12m～14.34m、T3・T4は15.36m～15.84m、T5・T6は16.07m～17.20m、T7・T8は17.67m～18.24mを測り、西側から東側にかけて約4mの高低差がみられる。

幅約1.5～1.8m、長さ10～60mのトレンチを調査対象地区内に8本設定した。トレンチは東側からT1～T8となる。

基本層序

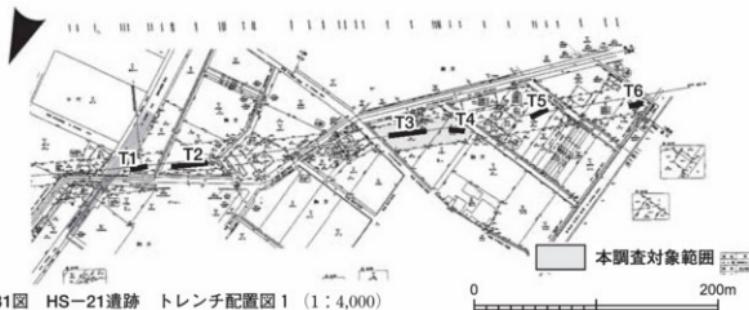
層位	地層	土色・土質・層厚
I a層	現耕作土	暗灰黄砂質シルト・黒褐色砂質シルト（10～30cm）
I b層	盛土	暗灰黄砂質シルト（10～20cm）
II層	遺物包含層	暗オリーブ褐色シルト（10～20cm）
III層	地山	にぶい黄色粘質シルト（10～20cm）
IV層	地山	黃灰色砂礫

調査結果

T3は耕作土が約10～15cm、盛土が東端にのみ約15cm、遺物包含層が約10～20cm堆積している。出土遺物がなく、遺構はIII層上面で土坑を7基確認している。T4は耕作土が約10～30cm、盛土が約15～20cmで、遺物包含層がみられなかつたが、遺構検出面の残りが良く、T3でみられた遺構のひろがりが続く可能性が高いと思われる。

T1・T2は耕作土直下に盛土（50～120cm）があり、ほ場整備による削平をうけている。遺構・遺物は確認していない。T6の西側とT8の東側にはにぶい黄色砂と灰黄色砂質シルトが互層となって約1m堆積しており、自然堆積の様相がみられる。T5・T7も検出遺構ではなく、出土遺物はT7の耕作土から珠洲の小破片を確認したのみである。

以上から本調査を必要とする範囲は中世の遺構・遺物を確認したT3・T4の1,540m²（遺構面一面）である。時期は、分布調査で珠洲などを確認していることから中世と思われる。T1・T2・T5～T8は遺構の検出ではなく、出土遺物も少ないと本調査の必要はない判断した。なお、遺跡の名称は高岡市教育委員会と協議の上、所在地名から“駒方南遺跡”とした。



第31図 HS-21遺跡 トレンチ配置図1 (1:4,000)



第32図 HS-21遺跡 トレンチ配置図2 (1:4,000)



第33図 HS-21遺跡 検出造構平面図 (1:1,000)

18. 高岡市下老子 笹川遺跡

調査対象地

下老子 笹川遺跡は高岡市西部の庄川扇状地扇端部に位置する。高岡市の南端と旧福岡町の北端にまたがって位置し、福岡町一步二歩に所在する。現況は水田と畑である。

標高は17.52m～18.67mで、幅約1.8m、長さ5～28mのトレンチを調査対象地区内に5本設定した。

基本層序

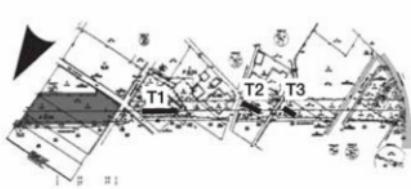
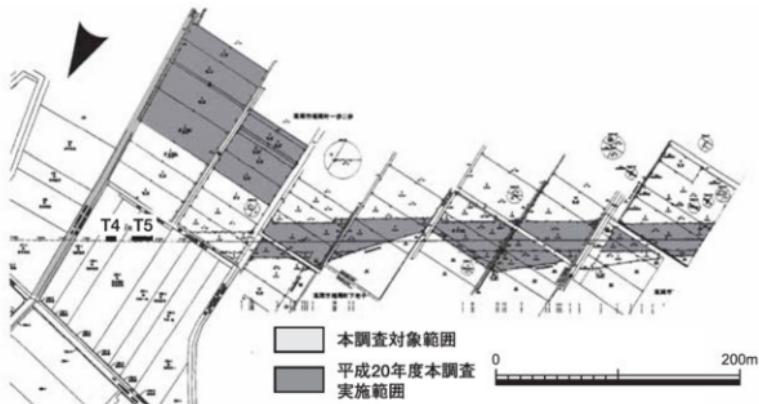
層位	地層	土色・土質・層厚
I a層	現耕作土	暗灰黄シルト（20～40cm）
I b層	盛土	黄褐色シルト（10～20cm）
II 層	遺物包含層	暗オリーブ褐色シルト（10～30cm）
III 層	地山	黄褐色砂礫

調査結果

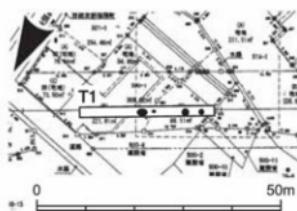
T1は遺物包含層から近世陶磁器などが出土した。遺構は、III層上面で土坑を3基確認している。隣接する能越自動車道調査A4・5地区で土坑群が見つかっており、これらの広がりと思われる。

T2～T5は耕作土直下に砂やビートなどが堆積し、自然流路の堆積の様相がみられる。遺構の検出はなく、出土遺物もないことから本調査の必要はない判断した。

以上から本調査を必要とする範囲は近世の遺構・遺物を確認したT1の760m²（遺構面一面）である。なお、対象範囲については今年度に本調査を行っている。



第34図 下老子 笹川遺跡 トレンチ配置図 (1:4,000)



第35図 検出遺構平面図 (1:1,000)

19. 高岡市江尻遺跡

調査対象地

江尻遺跡は江尻地内に所在し、小矢部川と岸渡川と荒又川に挟まれた平地に立地する。庄川新扇状地の扇端部に位置し、現況は水田と畑である。遺跡が所在する一帯は、古くから沖積活動によって幾度となく流路を変えた庄川・小矢部川の氾濫による被害を受けていたことが知られ、また、標高10～15mの末端部では、網目状流路をとる大小河川の浸食によって複雑な微地形が発達している。

標高は18.32m～19.72mを測り、幅約1.8m、長さ10～50mの掘削溝を調査対象地区内に4本設定した。

基本層序

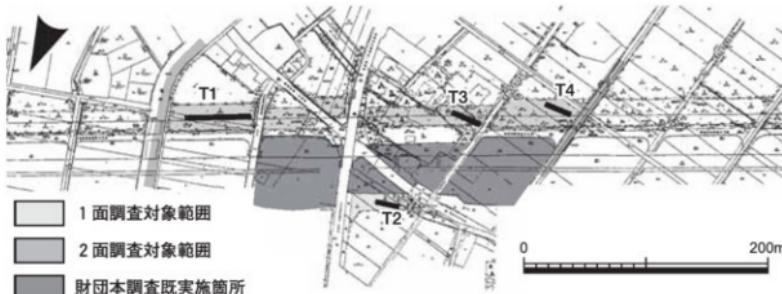
層位	地層	土色・土質・層厚
I a層	現耕作土	オリーブ褐色砂質シルト（15～30cm）
I b層	盛土	黒褐色砂質シルト（10～40cm）
II層	上層遺物包含層	暗黄灰色砂質シルト（10～20cm）
III層	地山・下層遺物包含層	黄褐色砂・黒褐色シルト（30～40cm）
IV層	地山	灰オリーブ粘土

調査結果

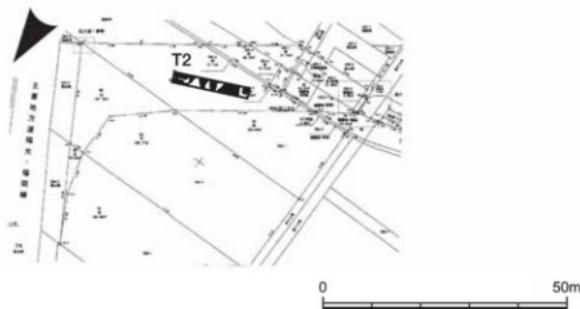
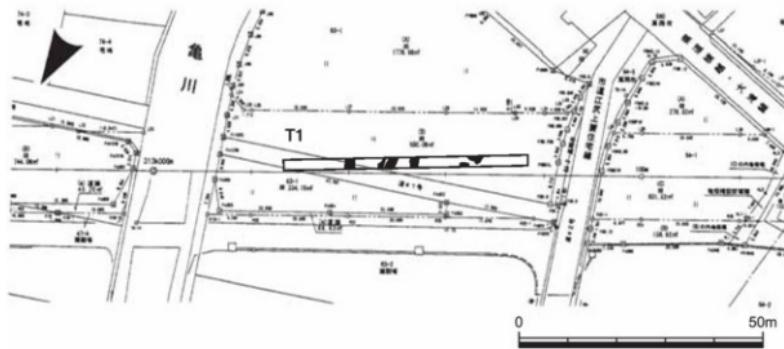
T 1は上層遺構が、III層上面で溝6条、土坑2基、下層遺構はIV層上面で溝を1条確認しており、出土遺物はない。T 2は、上層遺構のみで溝5条、土坑8基を確認した。出土遺物は近世陶磁器などである。T 3は上層遺構が土坑2基で、上層包含層から土師器の小破片が出土している。T 4は上層遺構は溝3条で、下層遺構は自然流路を1条確認している。出土遺物は近世陶磁器などである。隣接する能越自動車道調査A～C地区で近世の集落と弥生時代の谷などが見つかっており、これらの広がりとみられる。

よって、T 2の遺構面は1面で、T 1・T 3・T 4の遺構面は2面である。

以上から本調査を必要とする範囲は弥生時代・近世の遺構を確認したT 1～T 4の上層5,970m²、T 1・T 3・T 4の下層5,170m²（遺構面二面）延11,140m²である。
(細辻 真澄)



第36図 江尻遺跡 トレーンチ配置図 (1:4,000)



第37図 江尻遺跡 検出遺構平面図 (1:1,000)

20. 小矢部市開跡大滝遺跡

調査対象地

開跡大滝遺跡は、砺波平野北部に位置し、高岡市南西部（福岡町開跡）と小矢部市北東部（五社）にまたがっている。小矢部川の支流である岸渡川と黒石川の微高地に立地し、標高22.1～22.3mを測る。土地分類図では、扇状地性低地・粗粒灰色低地土壤に分類される。遺跡は、1991年に富山県教育委員会が能越自動車道建設に伴う分布調査で“N E J-05遺跡”（78,400m²）と仮称し、1992年に当調査事務所が試掘調査で中世～近世の遺跡として“開跡大滝遺跡”（25,300m²）と命名した（河西1993）。1993年には、同事務所が高岡市福岡町開跡地内の能越自動車道福岡IC部分の本調査を実施し、16世紀後半の木舟城下町と近世の集落を検出した（池野他2000）。北陸新幹線関係では昨年度福岡ICの両脇で同事務所が確認調査を行ったが、遺構・遺物は見つからなかった（細辻2008）。今回の確認調査対象範囲は、遺跡の西端で高岡市境～市道七社五社線間の小矢部市五社地内で、トレンチ3本を設定し調査を行った。

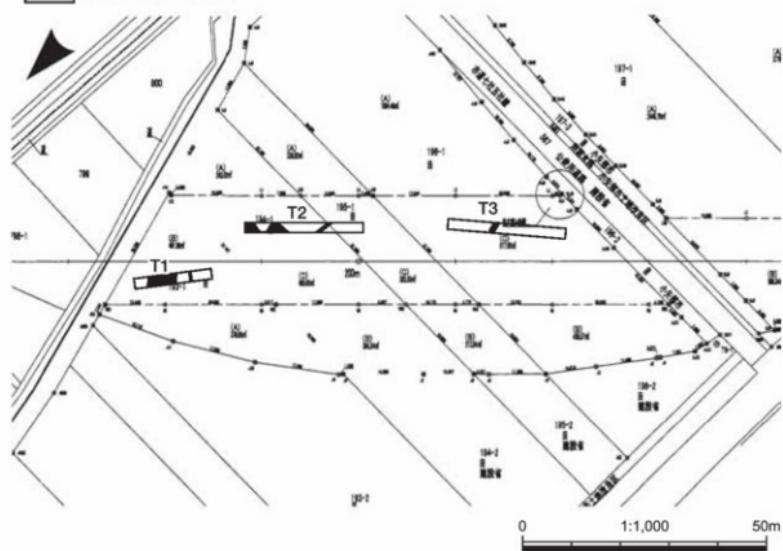
基本層序

層位	地層	土色・土質・層厚
I層	表土	オリーブ黒色砂質シルト (24~40cm)
II層	遺物包含層	オリーブ黒色砂質シルト (20~30cm)
III層	地山	オリーブ灰色砂に礫が混じる

調査結果

調査対象地の全域（T 1～3）で遺構（III層上面）を検出した。遺物包含層はT 1のみで、他では遺構検出面まで削平を受けており残っていなかった。T 1では、溝1条・自然流路1を検出した。自然流路は、南東から北西に流れており、能越自動車道調査地区で検出した古代～中世の遺物を含む溝に続くものとみられる。溝は、幅約60cmで自然流路と並行して走る。遺物は、遺物包含層（II層）から瓦質土器の香炉が出土している。T 2では、溝1条と自然流路2条を検出した。溝は、幅約1mで南北方向に走る。これは、能越自動車道調査地区で検出した木舟城下町の町割りと並行するものでありこの南側の延長と考えられる。自然流路はその形状からT 1と同様と考える。T 3では、溝1条を検出した。この溝は、T 2と同様の規模と方向性をもち同じ機能が伺える。なお、遺構の埋土は遺物包含層に礫や炭化物が混じるものである。

以上の結果から、本調査を対象とする範囲は調査対象地の全域（T 1～3）で面積は2,210m²である。遺跡の時期は、遺構配置と出土遺物から能越自動車道調査地区と同様の木舟城下町の一部と考えられ、中世後半とみられる。



第38図 開群大港遺跡 トレンチ配置図 (1:4,000、1:1,000)

21. 小矢部市五社遺跡

調査対象地

五社遺跡は、小矢部市北東部で砺波平野北部に位置する。岸渡川と黒石川の微高地に立地し、標高23.4~24.4mを測る。土地分類図では、扇状地性低地・粗粒灰色低地土壤に分類される。遺跡は、1990年に富山県教育委員会が能越自動車道建設に伴う分布調査で“NEJ-04遺跡”(67,000m²)と仮称し、1992年に小矢部市教育委員会が試掘調査で中世～近世の遺跡として“五社遺跡”(32,000m²)と命名した（山森他1991）。1992～1994年には、当事務所が能越自動車路線部分の本調査を実施し、古墳時代（5世紀）の集落、古代（8～11世紀）の集落、中世の集落（12～13世紀）を検出した（調査延面積38,100m²）。中世の集落は、室町院の所領「糸岡莊」の一部と考えられる（山本他1998）。今回の確認調査対象範囲は、遺跡の南端で能越自動車道～五社条里遺跡間の小矢部市五社地内で、トレンチ6本を設定して調査を行った。

基本層序

層位	地層	土色・土質・層厚
I層	表土・盛土	暗灰黄色シルト (20~70cm)
II層	遺物包含層	黒色砂質シルト (10~30cm)
III層	地山	灰色砂 (10~50cm)
IV層	地山	灰色粘土質シルト (5~10cm)
V層	地山	オリーブ黒色シルト・ビート層 (5~25cm)
VI層	地山	灰オリーブ色粘土質シルト・ビート層 (10~20cm)
VII層	地山	灰オリーブ色粗砂に礫を含む

調査結果

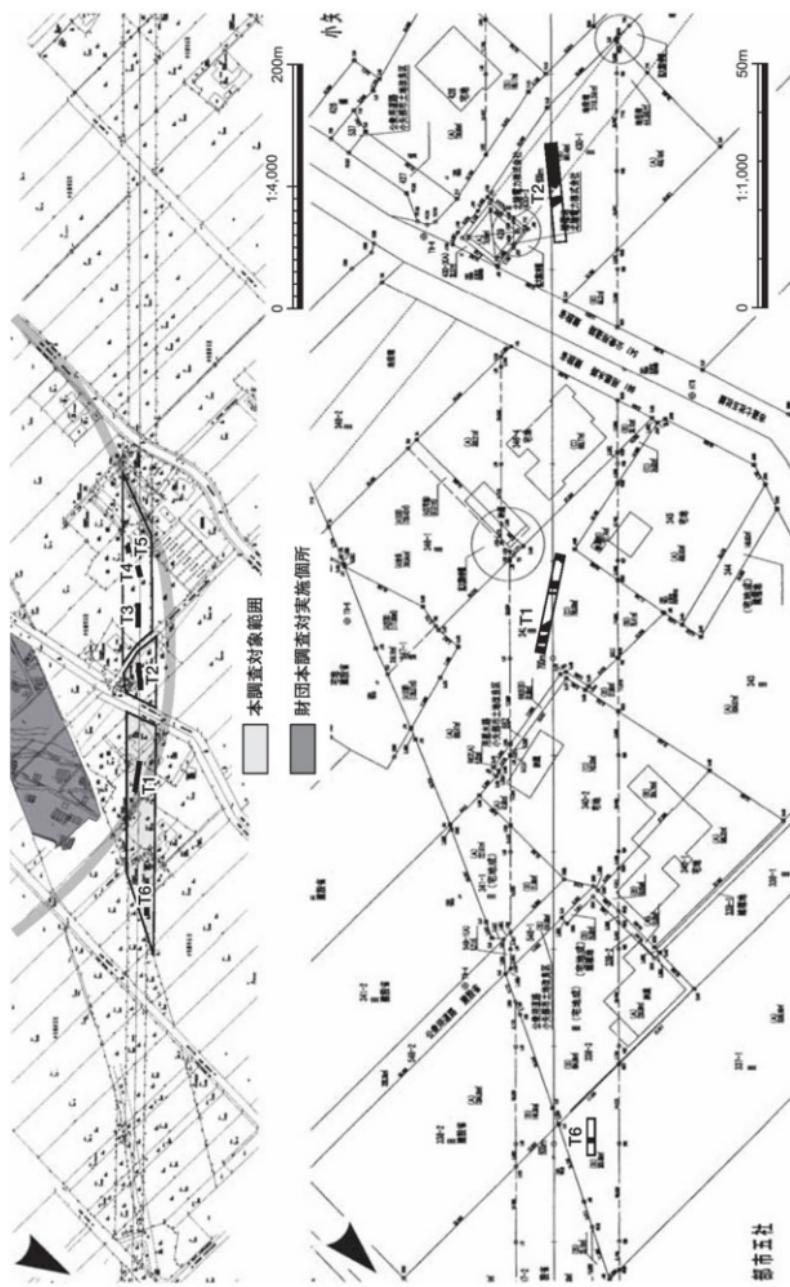
調査対象地の東端のT1・2で遺物包含層（II層）及び遺構（III層上面）を検出した。T1では、南北方向の溝群とビット群を検出した。ビット群は、等間隔で並んで検出されたため掘立柱建物の柱穴の可能性がある。遺物は、土師器・製塙土器・須恵器が溝とビットから出土している。T2では、T1同様に南北方向の溝を検出し、土師器が出土している。これらの遺構は調査対象地の南側で当事務所が1992～1994年に実施した本調査の結果と類似しておりこの遺構群の続きとみられる。遺構の時期は、出土遺物と遺構群の関係から古代後期（10世紀末～11世紀）とみられる。また、今回の調査ではみられなかったが、能越自動車道調査地区では古代後期のほかに古墳時代・古代前期・中世の遺構も確認しており、これらの遺構も検出される可能性がある。

なお、本来遺跡範囲外であった能越自動車道とT1の間についてはT1の遺構密度が高くその広がりが伺えることからT6として確認調査を行ったところT1と同様な層位と溝を検出した。

T3～5は、遺物包含層・遺構は検出されず、谷状の堆積がみられただけであった。

III層（遺構検出面）より下層については、数か所で1m以上の深掘りを行ったが、洪水堆積土とみられる粘質土（IV層）・ビート層（V・VI層）が堆積するだけで遺構・遺物は検出されなかった。

以上の結果から、本調査の対象とする範囲は遺構・遺物包含層を検出したT1・2・6を含む箇所に限定され、その面積は4,450m²（1面）となる。遺跡の時期は、出土遺物から古代後期とみられる。



第39図 五社遺跡 トレーンチ配置図 (1:4,000、1:1,000)

22. 小矢部市五社条里遺跡

調査対象地

五社条里遺跡は、小矢部市北東部で砺波平野北部に位置する。岸渡川と黒石川の微高地に立地し、標高24.7～25.0mを測る。土地分類図では、肩状地性低地・粗粒灰色低地土壤に分類される。遺跡は、以前残っていた条里型地割からその分布範囲をしめしたものである。この地割を金田章裕氏は、不明瞭としながらも西に約6度偏るものと推定し、古代条里との関係を示している（金田1971）。

今回の確認調査対象範囲は、遺跡の南端で市道道明木舟線～主要地方道富山・戸出・小矢部線手前までの小矢部市五社地内で、トレーンチ5本を設定し調査を行った。

基本層序

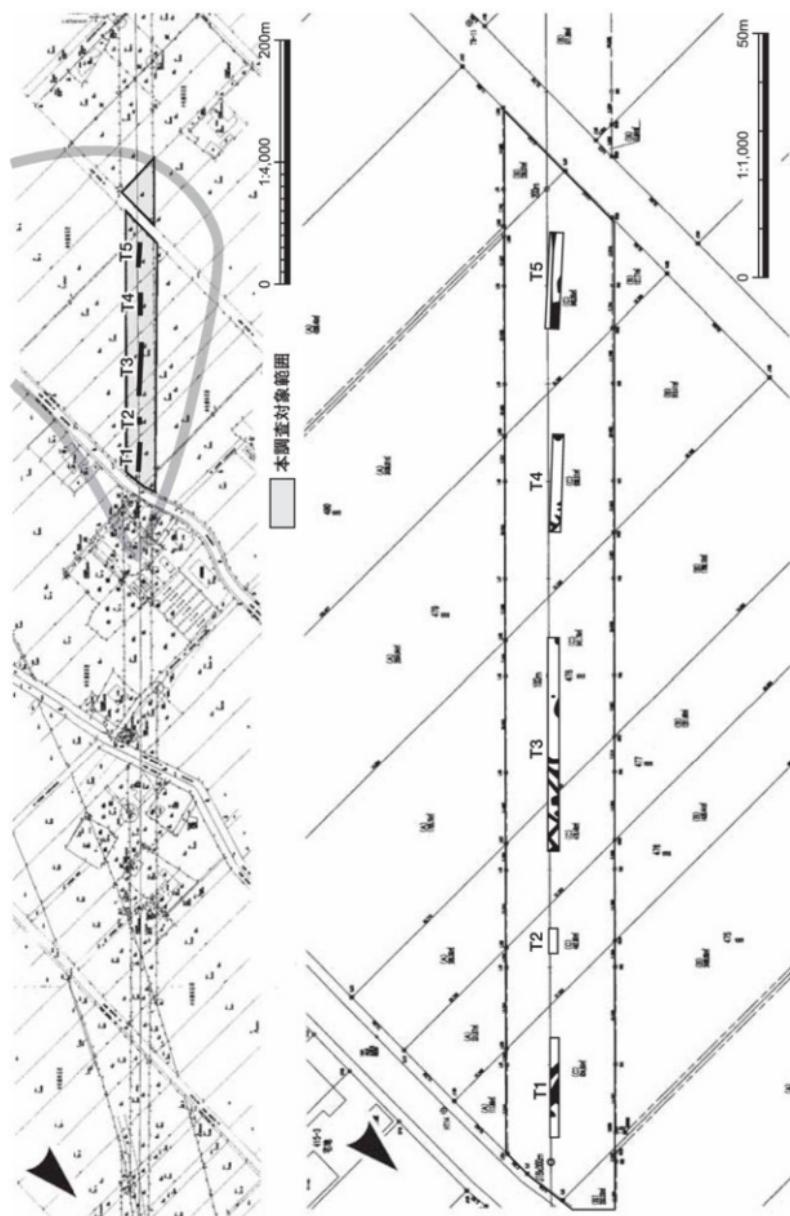
層位	地層	土色・土質・層厚
I層	表土・盛土	暗灰黄色シルト (14～30cm)
II層	遺物包含層	黒褐色シルト (4～18cm)
III層	地山	灰オリーブ色シルト (12～30cm)
IV層	地山	オリーブ灰色砂質シルト (10～40cm)
V層	地山	灰オリーブ色粗砂 (10～74cm)
VI層	地山	黒色シルト・ビート層 (6～20cm)
VII層	地山	オリーブ黒色シルト・ビート層 (6～26cm)
VIII層	地山	灰オリーブ色シルト・ビート層 (8～30cm)
IX層	地山	灰オリーブ色粗砂

調査結果

調査対象地のはば全域で遺物包含層（II層）及び遺構（III層上面）を検出した。T 1では、東西方向の幅1m以上の大型の溝と土坑を検出した。T 3・4では、南北と東西方向で直行する溝と土坑を検出した。この溝は幅50cmと小型であるが約4～5mの等間隔で並んでおり、遺跡名の由来である“条里”に関わる溝と考えられる。この溝は、延長してその方向をみてみると磁北よりもやや西に傾いており金田氏の説であればそれに相当するものとなろう。T 5では、溝と土坑を検出した。遺物は、T 4の土坑から土師器、T 3・4の遺物包含層から土師器・青磁・瀬戸美濃が出土している。遺構の時期は、出土遺物から古代～中世と考えられる。遺跡の東側宅地部分（市道道明木舟線～五社遺跡間）については、確認調査を行わなかったが、遺構検出面が浅いことで宅地造成によってすでに搅乱されていることと五社遺跡の西側トレーンチ（T 3～5）で遺構を検出できなかったことから遺構の広がりはないものと考える。

III層（遺構検出面）より下層については、数か所で1m以上の深掘りを行ったが、洪水堆積土とみられる砂質シルト層（IV層）・砂層（V層）・ビート層（VI～VIII層）が堆積するだけで遺構・遺物は検出されなかった。

以上の結果から、本調査を必要とする範囲は確認調査対象範囲のはば全域でその面積は5,840m²（1面）となる。なお、本調査必要範囲西端についてはT 5で遺構密度が少なくなることから遺跡範囲西端までではなく水田1枚分手前（五社498番地）までとした。遺跡の時期は、遺跡の名称でもある“条里”に関わる時期で古代～中世とみられる。



第40図 五社条里遺跡 トレンチ配置図 (1:4,000、1:1,000)

23. 小矢部市HS-22（水牧）遺跡

調査対象地

HS-22は、小矢部市北東部で砺波平野北西部に位置する。黒石川と小矢部川の微高地に立地し、標高26.9~27.2mを測る。土地分類図では、扇状地性低地・粗粒灰色低地土壤に分類される。HS-22遺跡は、2006年に富山県教育委員会が北陸新幹線建設に先立つ分布調査で発見した埋蔵文化財包蔵地である（7,200m²）。所属時期は、採集した土師器・須恵器・珠洲などから古代～中世とされる。今回の確認調査対象範囲は、埋蔵文化財包蔵地の全域で市道水牧4号線～主要地方道坪野小矢部線間の小矢部市水牧・高木出字沢島地内で、トレンチ9本を設定し調査を行った。

基本層序

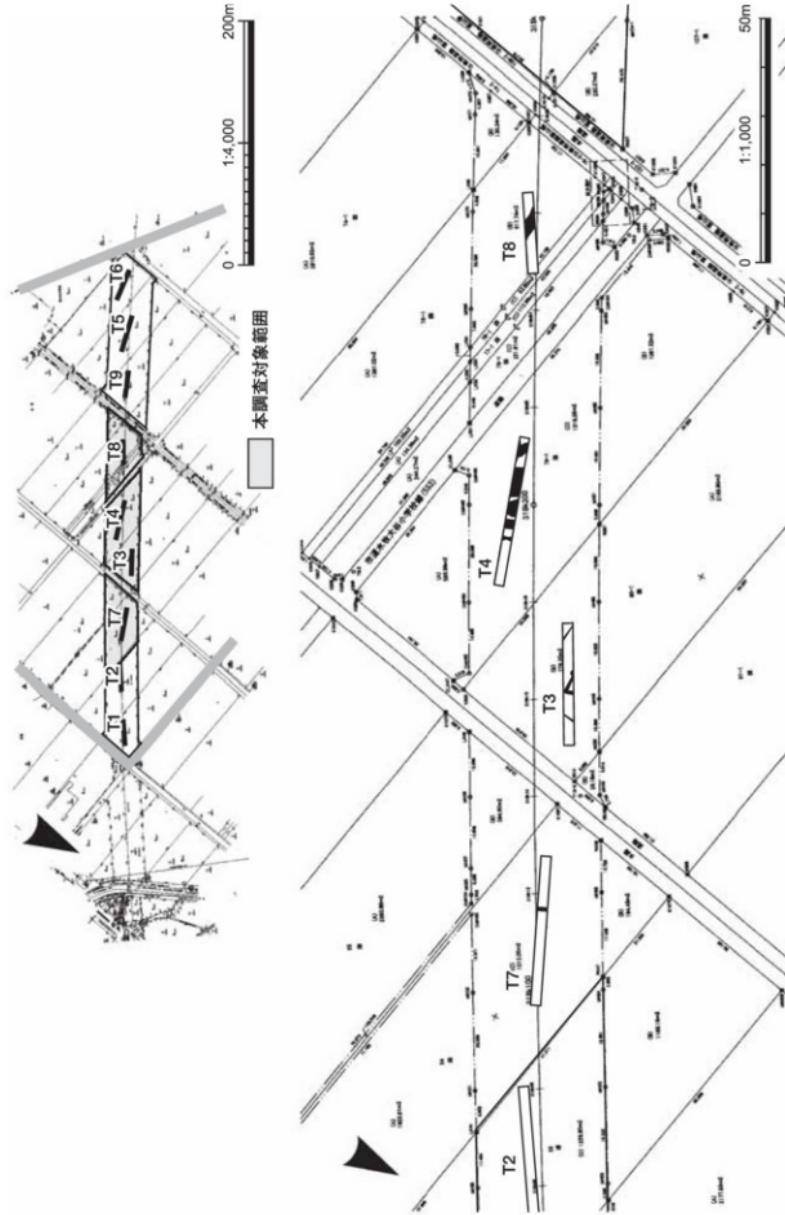
層位	地層	土色・土質・層厚
I層	表土・盛土	オリーブ黒色シルト (18~30cm)
II層	遺物包含層	暗灰黄色シルト (6~10cm)
III層	地山	オリーブ黄色砂質シルト (14~40cm)
IV層	地山	にぶい黄色粗砂
V層	地山	礫層

調査結果

調査対象地の中央部のT3・4・7・8で遺構（III層上面）を検出した。T3では溝4条・土坑2基・ピット2基を検出した。溝は、南北方向に走る幅約80cmのものと幅約50cmで南北と東西方向の直行するものがある。これらは切り合いから後者が新しい。T7でも前者と同様の溝1条が検出された。T4では、幅2m以上の大溝とピットを検出した。T8でも同様な大溝を検出している。遺物包含層（II層）は、ほ場整備によるものとみられる削平が激しく、T4で部分的に10cm程度残るにとどまる。遺物は、T7の溝から須恵器、他は表土・盛土から土師器・須恵器・青磁が出土している。遺構の時期は、遺構出土遺物から古代とみられる。

他のトレンチでは、T1で東端から自然流路を検出し、須恵器と板状の木製品が出土した。T2では近代以降の溝1条を検出した。T5・6・9では、礫層まで削平が及んでおり遺構・遺物包含層は検出できなかった。

以上のことから、本調査を必要とする範囲は、遺構を検出したT3・4・7・8を含む箇所に限定され、その面積は4,910m²（1面）となる。遺跡の名称は、小矢部市教育委員会と協議の上、所在地名から“水牧遺跡”とした。遺跡の時期は、古代とみられる。



第41図 HS-22遺跡 トレンチ配置図 (1:4,000、1:1,000)

24. 小矢部市HS-23遺跡

調査対象地

HS-23遺跡は、小矢部市北東部で砺波平野北西部に位置する。小矢部川の支流である黒石川と宮川の微高地に立地し、標高26.6~28.1mを測る。土地分類図では、扇状地性低地・灰色低地土壌に分類される。HS-23遺跡は、2006年に富山県教育委員会が北陸新幹線建設に先立つ分布調査で発見した埋蔵文化財包蔵地である（16,200m²）。所属時期は、採集した土師器・須恵器・珠洲などから古代～中世とされる。今回の確認調査対象範囲は、埋蔵文化財包蔵地の全域で主要地方道坪野小矢部線～五ヶ村用水間の小矢部市水牧・高木出字沢島・小神地内でトレンチ9本を設定し調査を行った。

基本層序

層位	地層	土色・土質・層厚
I層	表土・盛土	黒褐色シルト (20~44cm)
II層	洪水層？	暗オリーブ褐色シルト (18~26cm)
III層	洪水層？	黄灰色シルト (6~20cm)
IV層	洪水層？	黄灰色粘土質シルト (6~14cm)
V層	洪水層？	暗黄灰色粘土質シルト (4~10cm)
VI層	洪水層？	黄灰色粘土質シルト (4~12cm)
VII層	洪水層？	黄灰色砂質シルト (44~70cm)
VIII層	地山	黄灰色砂・裸

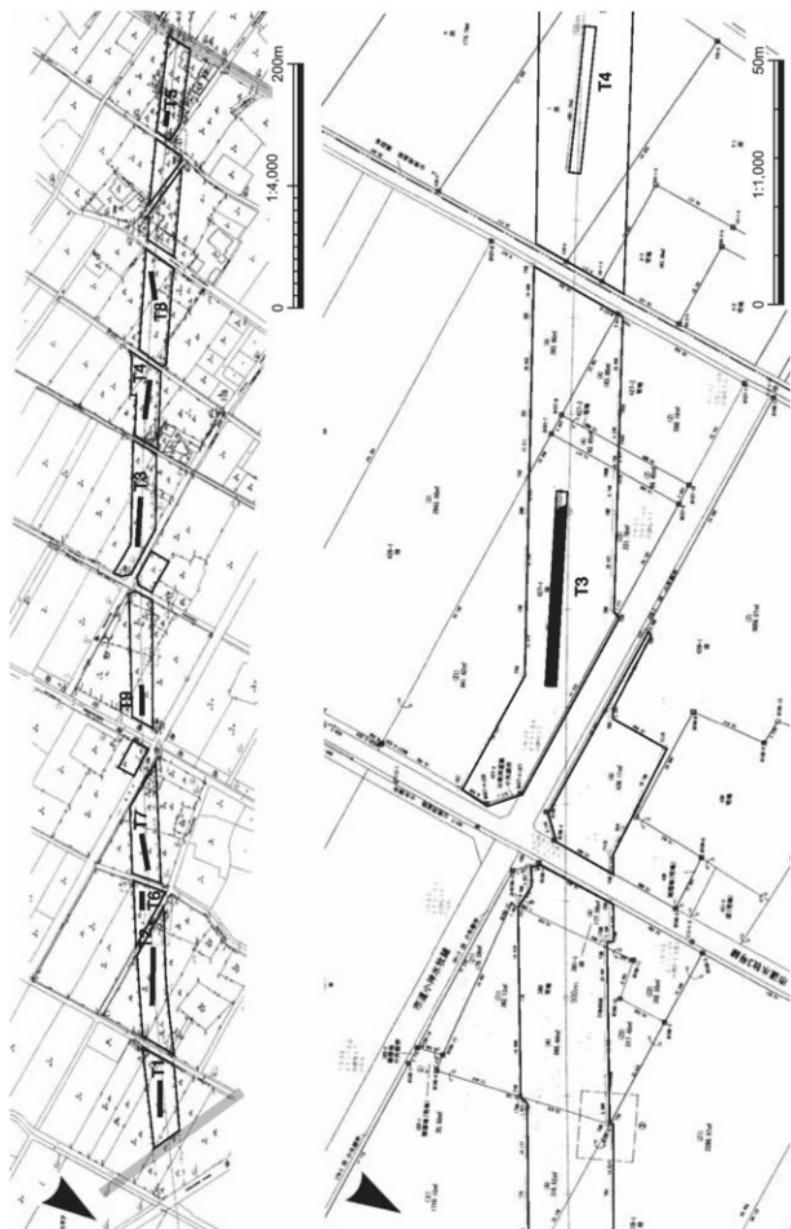
調査結果

T 2で近代以降の溝、T 3・9で自然流路を検出した以外に遺構・遺物包含層はみられなかった。東端のT 1では、表土下20cmで疊層が表れた。T 2・6・7・9は地山まで1m以上の深度があるが遺構は見られず、谷状地形と推定される。T 3では、自然流路の堆積土とみられる粘質土が1m以上堆積し、西端の肩部には護岸施設とみられる板材と土師器・須恵器、上面から中世土師器が出土した。県教育委員会による分布調査においてもこの付近から遺物を採集している。T 4・5・8は、表土下70cmで疊層が表れた。

このようにHS-23は、東側（T 1）と西側（T 4・5・8）が疊が高い位置である庄川扇状地の標準的な地形で中央部（T 2・3・6・7・9）に谷地形が入る。この谷地形の西端にあたるT 3からは古墳時代～中世の自然流路が流れているようである。現在の地名がここを境として東が水牧地内、西が小神地内であることから村境となっている流路と考えられる。

以上の結果から、本埋蔵文化財包蔵地からは遺構・遺物包含層は検出されず、その全域において本調査を必要としない。ただし、T 3で古墳時代～中世の遺物を包含する自然流路が検出されており、調査対象地外の近辺に当該期の集落の存在が予想される。

（町田賢一）



第42図 HS-23遺跡 トレント配置図 (1:4,000、1:1,000)

遺跡名	シンケ番号	全長(m)	検出遺構	出土遺物	備考
上梅沢遺跡	T21	10	溝 1	越中瀬戸	今年度に本調査実施
	T22	17	溝 3	弥生土器・土師器	
	T23	12	無	無	
水橋金広・ 中馬場遺跡	T15	5	無	無	
	T16	35	溝 2・土坑 8	珠洲・越中瀬戸・伊万里	
北代一万歩遺跡	T1	25	無	無	
	T5	2	無	土師器	
呉羽富田町遺跡	T6	2	無	土師器	
	T7	2	無	土師器	
小竹貝塚	T5	30	谷	縄文土器	
HS-04・白石遺跡	T1	40	溝 5	土師器	
	T2	30	溝 3・土坑 3	土師器	
	T3	40	無	越中瀬戸	
	T4	40	無	無	
	T5	—	—	—	T7の結果から欠番とする
	T6	—	—	—	T7の結果から欠番とする
	T7	25	溝 1・土坑 3	唐津	
	T8	10	溝 1	土師器・越中瀬戸・伊万里	
	T9	15	溝 2	土師器・瓦質土器	
	T10	25	溝 2・土坑 3	土師器・須恵器・青磁・伊万里	
	T11	35	溝 5・土坑 3		
	T12	40	無	珠洲・近世磁器	
	T13	15	無	越中瀬戸	
	T14	40	無	珠洲	
	T15	40	無	伊万里	
	T16	20	無	近世陶器	
	T17	15	無	土師器・近世陶磁器	
	T18	40	無	唐津	
	T19	20	無	無	
	T20	50	無	伊万里	
	T21	40	無	無	
	T22	40	溝 4・土坑 2	無	
	T23	30	無	無	
	T24	20	無	無	
	T25	—	—	—	T14-24の結果から欠番とする
愛宕遺跡	T1	10	溝 3・土坑 2	弥生土器・土師器・須恵器・越中瀬戸・筋託石	
	T2	45	溝 2・土坑 3	弥生土器・土師器・須恵器・珠洲・越中瀬戸・伊万里	
	T3	35	溝 1・土坑 1		
	T4	45	溝 1・土坑 1	土師器	
	T5	45	溝 2・土坑 5	土師器	
	T6	45	溝 4	須恵器・珠洲・唐津	
	T7	30	溝 1	近代陶磁器	
	T8	40	自然流路 1		
	T9	50	溝2・土坑4・自然流路2	土師器・越中瀬戸	
	T10	20	溝 1	土師器	
安吉遺跡	T1	20	溝 4・土坑 3	珠洲	
	T2	50	溝 10・土坑 3		
	T3	30	溝 3・土坑 1	珠洲・瀬戸美濃・越中瀬戸・唐津	
	T4	25	溝 4・土坑 1	珠洲・板材	
棚田遺跡	T1	40	土坑18・柱穴 5	土師器・唐津	
	T2	60	溝 2・土坑 2・柱穴31	越中瀬戸	
本江大坪 I 遺跡	T1	25	溝 1・土坑 6・柱穴		
	T2	50	溝 4・土坑14・柱穴19		
	T3	15	溝 2・土坑 2・柱穴12	土師器	
	T4	25	溝 2・土坑 3・柱穴 4	土師器・板材	
	T5	30	土坑 5・柱穴 7		

第1表 平成20年度包蔵地確認調査トレンド一覧（富山市・射水市）

遺跡名	レンチ番号	全長(m)	検出遺構	出土遺物	備考
下佐野遺跡	T2	23	溝 1	土師器	
	T4	10	溝 1・土坑 2		
	T5	15	溝 1・土坑 3	珠洲・板材	
HS-18 (源訪) 遺跡	T1	40	溝 4・自然流路 1		
	T3	35	溝 3・土坑 31	漆器	
	T4	20	無		
辻南遺跡	T1	35	無	土師器	
	T2	30	無		
	T3	30	無		
	T4	13	土坑 4	土師器	
	T5	8	溝 1	土師器	
	T6	5	自然流路 1	土師器・須恵器・たも状木製品	
HS-19 (藏野町東) 遺跡	T1	30	溝 5・土坑 3・柱穴 1		
	T2	10	溝 1・土坑 1		
	T3	20	溝 1・土坑 3		
HS-20 (藏野町) 遺跡	T1	70	溝 5・土坑 2	珠洲	
	T2	30	溝 2・土坑 3		
	T3	35	溝 4・土坑 2		
	T4	8	溝 2		
	T5	50	無		
	T6	10	溝 1		
	T7	40	溝 5・土坑 4		
	T8	20	溝 2		
	T9	25	無		
小竹B遺跡	T1	15	溝 1		
	T2	27	無		
	T3	50	自然流路 1	近世陶磁器	
	T4	10	土坑 1		
	T5	13	自然流路 1		
HS-21 (駒方南) 遺跡	T1	10	無		
	T2	30	無		
	T3	30	土坑 7		
	T4	10	無		
	T5	15	無		
	T6	10	無		
	T7	60	無		
	T8	10	無		
下老子篠川遺跡	T1	28	土坑 4	越中瀬戸・近世陶磁器	今年度に本調査実施
	T2	15	無		
	T3	12	無		
	T4	5	無		
	T5	15	無		
江尻遺跡	T1	50	溝 6・土坑 2		
	T2	15	溝 5・土坑 8	越中瀬戸	
	T3	10	土坑 2	土師器	
	T4	20	溝 3・自然流路 1	近世陶磁器	

第2表 平成20年度包蔵地確認調査トレント一覧（高岡市）

遺跡名	シンク番号	全長(m)	検出遺構	出土遺物	備考
開館大滝遺跡	T1	16	溝 1・自然流路 1	瓦器	
	T2	23	溝 1・自然流路 2		表土下疊層
	T3	24	溝 1		表土下疊層
五社遺跡	T1	20	溝 7・ビット 6	土師器・製塙土器・須恵器	
	T2	20	溝 2	土師器	
	T3	25	自然流路 2	白磁	
	T4	10	無		
	T5	5	無		
	T6	7	溝 1	土師器	
五社条里遺跡	T1	20	溝 2・土坑 1		
	T2	5	無		
	T3	45	溝 7・土坑 9	土師器・瀬戸美濃・青磁	
	T4	20	溝 5・土坑 1	土師器	
	T5	20	溝 2・土坑 2		
HS-22 (水牧) 遺跡	T1	20	自然流路 1	須恵器	
	T2	25	無	土師器	
	T3	25	溝 4・土坑 2・柱穴 2	土師器・須恵器・板材	表土下疊層
	T4	30	溝 5・柱穴 2	青磁	
	T5	30	無		表土下疊層
	T6	30	無	須恵器	表土下疊層
	T7	30	溝 1	土師器・須恵器	表土下疊層
	T8	15	溝 1	土師器	
	T9	25	無		表土下疊層
HS-23 遺跡	T1	30	無		表土下疊層
	T2	50	溝 1・土坑 1		
	T3	40	自然流路	土師器・須恵器・中世土師器・板材	
	T4	30	無		
	T5	15	無		
	T6	15	無		
	T7	30	土坑 1		
	T8	25	無		
	T9	25	無	木杭	

第3表 平成20年度包蔵地確認調査トレンチ一覧（小矢部市）

IV　まとめ

平成20年度に行った埋蔵文化財包蔵地確認調査の結果は、以下の通りである。

包蔵地名	対象面積 (m ²)	調査面積 (m ²)	遺跡の 有無	本調査対象 面積(m ²)	主な遺構	主な遺物	時期
上梅沢遺跡	1,270	39	有	680	溝	弥生土器・土師器・越中瀬戸	弥生～古墳 ・中近世
水橋金広 ・中馬場遺跡	1,280	80	有	1,210	溝・土坑	珠洲・越中瀬戸・伊万里	中近世
北代一万歩遺跡	900	50	無		無	無	
呉羽富田町遺跡	740	11	無		無	土師器	
小竹貝塚	280	42	有	240	谷	縄文土器	縄文
HS-04・白石遺跡	45,500	1,206	有	12,120	溝・土坑	土師器・伊万里・越中瀬戸	古墳・中近世
愛宕遺跡	15,300	648	有	4,620	溝・土坑	弥生土器・土師器・須恵器・珠洲	弥生～古代
安吉遺跡	7,200	225	有	5,820	溝・土坑	珠洲・瀬戸美濃・越中瀬戸・唐津	中世
棚田遺跡	3,600	180	有	8,340	溝・土坑	土師器・唐津・越中瀬戸	古代～中世
本江大坪 I 遺跡	3,600	261	有	5,460	溝・土坑 ・柱穴	土師器	古代～中世
下佐野遺跡	13,500	86	有	11,420	溝・土坑	土師器・珠洲	古代～中世
HS-18 (源詠) 遺跡	9,900	155	有	9,030	溝・土坑	漆器	古代～中世
辻南遺跡	8,400	218	有	1,930	溝・土坑	土師器・須恵器	古墳～中世
HS-19 (歳野町東) 遺跡	1,800	108	有	5,080	溝・土坑	無	古墳～中世
HS-20 (歳野町) 遺跡	8,500	516	有	6,890	溝・土坑	珠洲	中世
小竹 B 遺跡	3,600	200	無		自然流路	無	
HS-21 (駒方南) 遺跡	23,000	291	有	1,540	土坑	無	中世
下老子笹川遺跡	3,130	135	有	760	土坑	越中瀬戸・近世陶磁器	近世
江尻遺跡	5,070	171	有	上層5,970 下層5,170	溝・土坑	土師器・越中瀬戸・近世陶磁器	弥生・近世
間野大滝遺跡	2,040	110	有	2,210	溝・自然流路	瓦器	中世
五社遺跡	4,500	155	有	4,450	溝・柱穴	土師器	古代
五社条里遺跡	5,400	198	有	5,840	溝・土坑	土師器	古代～中世
HS-22 (水牧) 遺跡	7,200	414	有	4,910	溝・柱穴	土師器・須恵器	古代
HS-23遺跡	16,200	464	無		溝・土坑	無	

(参考文献)

- 池野正男他 2000 「開跡大滝遺跡」『開跡大滝遺跡・地崎遺跡発掘調査報告 第一分冊』財團法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
- 伊藤隆三 1994 「五社遺跡」「平成5年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報」小矢部市教育委員会
- 尾野寺克実 1997 「大門東部地区埋蔵文化財発掘調査報告」大門町教育委員会
- 尾野寺克実 1999 「安吉遺跡発掘調査報告」大門町教育委員会
- 尾野寺克実 2005 「安吉遺跡発掘調査報告(3)」大門町教育委員会
- 河西健二 1993 「N E J - 05 (開跡大滝遺跡)」「能越自動車道関係埋蔵文化財包蔵地調査報告一小矢部市~福岡町間一」財團法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
- 金田章裕 1971 「条里制『小矢部市史 上巻』小矢部市史編纂委員会
- 国土庁土地局国土調査課 1973 「土地分類図16 (富山県)」
- 小杉町教育委員会1991 「小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1990年度」
- 田中明他 2008 「愛宕遺跡」「射水市内遺跡発掘調査一覧-平成17・18年度」射水市教育委員会
- 高岡市教育委員会1993 「高岡市埋蔵文化財分布調査概報IV-平成4年度,千鳥ヶ丘地区の遺跡分布調査-」
- 富山県立高岡工芸高等学校地理歴史クラブ 富山県立高岡工芸高等学校地理歴史クラブO・B会1972 「富山県高岡市高田新・駒方遺跡調査報告書」
- 富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所2007 「北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地確認調査報告(7)」
- 富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所2008 「北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地確認調査報告(8)」
- 富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所2003 「江尻遺跡・糞鳥遺跡発掘調査報告」
- 富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所2006 「下老子笹川遺跡発掘調査報告」
- 原田義範 1997 「愛宕遺跡」「小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1996年度」小杉町教育委員会
- 原田義範 1998 「愛宕遺跡」「小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1997年度」小杉町教育委員会
- 原田義範 1999 「愛宕遺跡」「小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1998年度」小杉町教育委員会
- 繩辻真澄 2008 「開跡大滝遺跡」「北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告(8)」財團法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
- 山本正敏他 1998 「五社遺跡発掘調査報告 第一分冊」財團法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
- 山森伸正他 1991 「五社遺跡」「能越自動車道関係遺跡群試掘調査報告」小矢部市教育委員会



(1) T1 完掘状況（南から）



(2) T1 中央土層断面（西から）



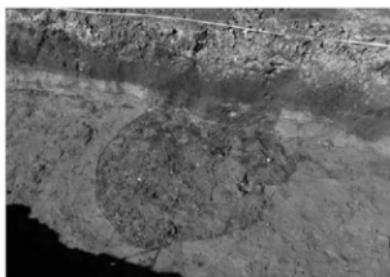
(3) T2 完掘状況（南から）



(4) T2 中央土層断面（西から）



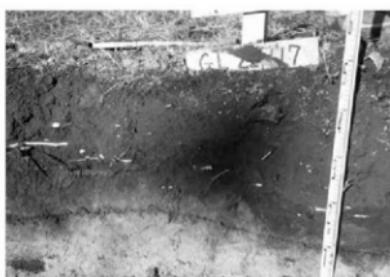
(5) T16完掘状況（西から）



(6) T16中央土層断面（南から）



(7) T1 完掘状況（東から）



(8) T1 中央土層断面（南から）

(1)～(4)：上梅沢遺跡 (5)・(6)：水橋金宏・中馬場遺跡 (7)・(8)：北代一万歩遺跡

写真 2



(9) T 5～7 遠景（東から）



(10) T 6 土層断面（南から）



(11) T 1 遠景（東から）



(12) T 1 完掘状況（南東から）



(13) T 1 中央土層断面（南西から）



(14) T 1 遺物出土状況（西から）



(15) T 1 遠景（東から）

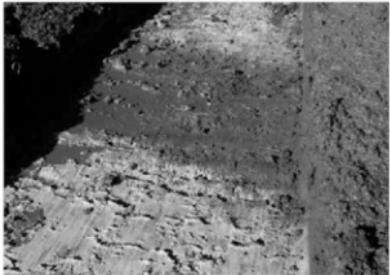


(16) T 1 完掘状況（東から）

(9)・(10)：興羽富田町遺跡 (11)～(14)：小竹貝塚 (15)・(16)：HS-04遺跡



(17) T 2 西端土層断面（南から）



(18) T 2 遺構検出状況（東から）



(19) T 7 完掘状況（東から）



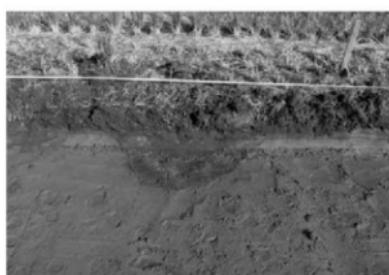
(20) T 7 遺構検出状況（南から）



(21) T 10 完掘状況（東から）



(22) T 10 中央土層断面（南から）



(23) T 11 中央土層断面（南から）



(24) T 12 中央土層断面（南から）

(17)～(24) : HS-04遺跡

写真 4



(25) T13中央土層断面（南から）



(26) T15完掘状況（東から）



(27) T15東端土層断面（南から）



(28) T18完掘状況（西から）



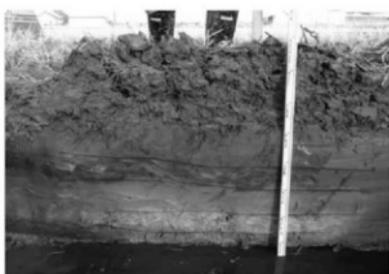
(29) T18完掘状況（西から）



(30) T20西端土層断面（南から）



(31) T23完掘状況（西から）



(32) T23西端土層断面（南から）

(25)～(32) : HS-04遺跡



(33) T 1 中央土層断面（南から）



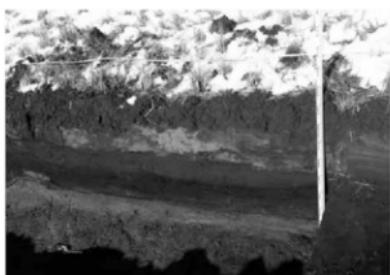
(34) T 1 遺構検出状況（西から）



(35) T 2 中央土層断面（南から）



(36) T 2 遺構検出状況（東から）



(37) T 9 東端土層断面（南から）



(38) T 9 遺構検出状況（東から）



(39) T 10 東端土層断面（南から）



(40) T 10 遺構検出状況（西から）

(33)～(40)：愛宕遺跡

写真 6



(41) T 1 西端土層断面（南から）



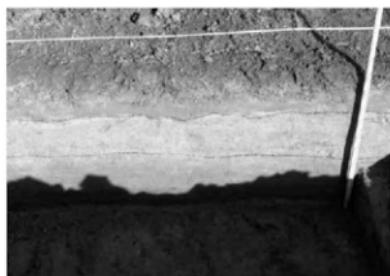
(42) T 1 遺構検出状況（東から）



(43) T 2 西端土層断面（南から）



(44) T 2 遺構検出状況（東から）



(45) T 3 東端土層断面（南から）



(46) T 3 遺構検出状況（西から）



(47) T 4 西端土層断面（南から）

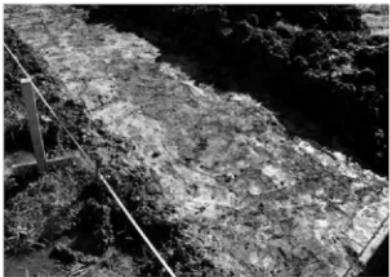


(48) T 4 遺構検出状況（東から）

(41)～(48)：安吉遺跡



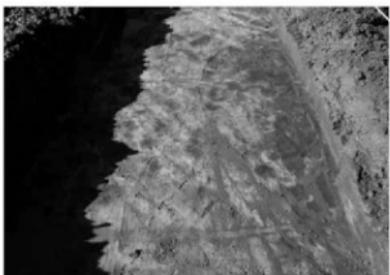
(49) T 1 東端土層断面（南から）



(50) T 1 遺構検出状況（西から）



(51) T 5 東端土層断面（南から）



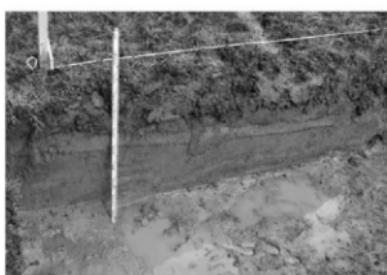
(52) T 5 遺構検出状況（東から）



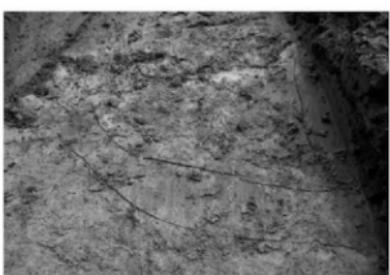
(53) T 1 西端土層断面（南から）



(54) T 1 遺構検出状況（東から）



(55) T 4 西端土層断面（南から）



(56) T 4 遺構検出状況（西から）

(49)・(50)：棚田遺跡 (51)～(56)：本江大坪 I 遺跡

写真 8



(57) T 2 東端土層断面（南から）



(58) T 2 完掘状況（東から）



(59) T 4 東端土層断面（南から）



(60) T 4 遺構検出状況（西から）



(61) T 1 東端土層断面（南から）



(62) T 1 遺構検出状況（南から）



(63) T 3 中央土層断面（南から）



(64) T 3 遺構検出状況（西から）

(57)～(60)：下佐野遺跡 (61)～(64)：HS-18遺跡



(65) T 4 中央土層断面（南から）



(66) T 4 遺構検出状況（東から）



(67) T 5 中央土層断面（南から）



(68) T 5 遺構検出状況（西から）



(69) T 1 中央土層断面（南から）



(70) T 1 遺構検出状況（東から）



(71) T 3 中央土層断面（南から）



(72) T 3 遺構検出状況（東から）

(65)～(68)：辻南遺跡 (69)～(72)：HS-19遺跡

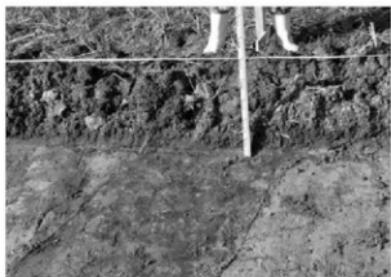
写真10



(73) T 1 西端土層断面（南から）



(74) T 1 遺構検出状況（西から）



(75) T 3 中央土層断面（南から）



(76) T 3 遺構検出状況（北西から）



(77) T 8 東端土層断面（南から）



(78) T 8 遺構検出状況（西から）



(79) T 2 東端土層断面（南から）



(80) T 2 完掘状況（東から）

(73)～(78)：HS-20遺跡 (79)・(80)：小竹B遺跡



(81) T 3 東端土層断面（南から）



(82) T 3 遺構検出状況（北から）



(83) T 4 東端土層断面（南から）



(84) T 4 完掘状況（東から）



(85) T 1 西端土層断面（南から）



(86) T 1 遺構検出状況（南から）



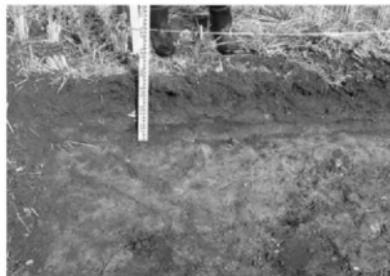
(87) T 5 中央土層断面（南から）



(88) T 4 完掘状況（西から）

(81)～(84)：HS-21遺跡 (85)～(88)：下老子笠川遺跡

写真12



(89) T 2 西端土層断面（南から）



(90) T 2 遺構検出状況（東から）



(91) T 4 中央土層断面（南から）



(92) T 2 遺構検出状況（西から）



(93) T 2 東端土層断面（南から）



(94) T 2 遺構検出状況（東から）



(95) T 3 東端土層断面（南から）



(96) T 3 遺構検出状況（東から）

(89)～(92)：江戸遺跡 (93)～(96)：開騒大滝遺跡



(97) T 1 東端土層断面（南から）



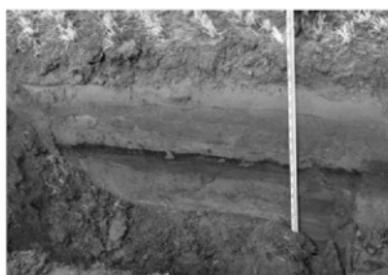
(98) T 1 遺構検出状況（東から）



(99) T 2 東端土層断面（南から）



(100) T 2 遺構検出状況（東から）



(101) T 1 東端土層断面（南から）



(102) T 1 遺構検出状況（西から）



(103) T 3 西端土層断面（南から）



(104) T 3 遺構検出状況（南から）

(97)～(100)：五社遺跡 (101)～(104)：五社条里遺跡

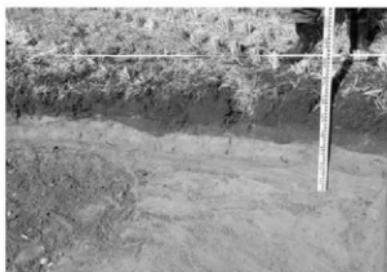
写真14



(105) T3 西端土層断面（南から）



(106) T3 遺構検出状況（東から）



(107) T4 西端土層断面（南から）



(108) T4 遺構検出状況（西から）



(109) T8 中央土層断面（南から）



(110) T8 遺構検出状況（東から）



(111) T2 東端土層断面（南から）



(112) T2 完掘状況（西から）

(105)～(110) : HS-22遺跡 (111)・(112) : HS-23遺跡

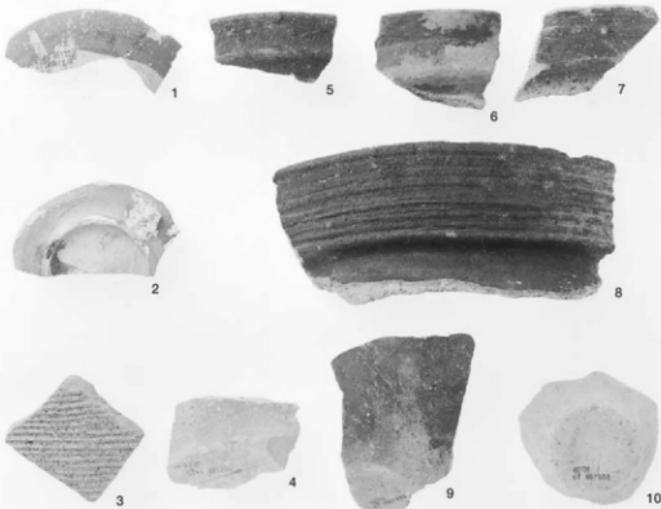


滑川・富山市内出土遺物（1・2：水橋金広・中馬場遺跡 3：上梅沢遺跡 4～8：小竹貝塚）

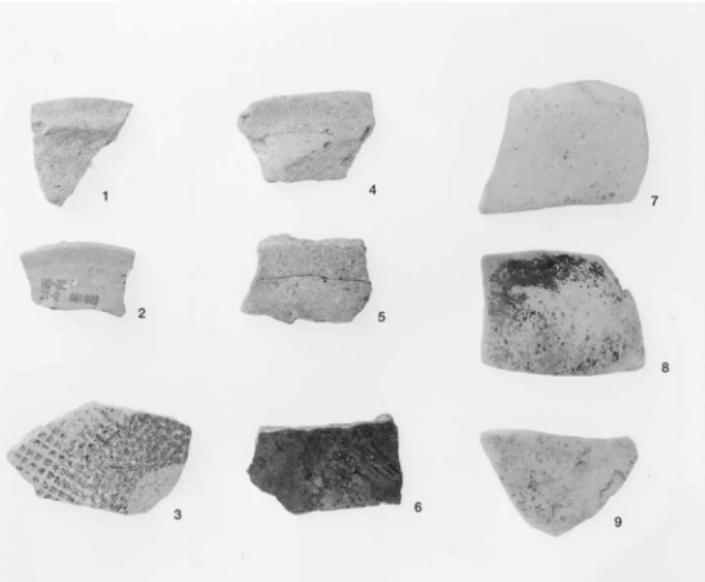


射水市内出土遺物（1・2：HS-04・白石遺跡 3・4：安吉遺跡 5：本江大坪I遺跡
6：棚田遺跡 7：愛宕遺跡）

写真16



高岡市内出土遺物（1：江尻遺跡 2：下老子笛川遺跡 3：HS-21遺跡 4：下佐野遺跡
5～10：辻南遺跡）



小矢部市内出土遺物（1：五社条里遺跡 2・3・6：HS-22遺跡 4・5・7～9：五社遺跡）

報告書抄録

ふりがな	はくくりくしんかんせんかんけいまいぞうぶんかざいほうぞううちちょうさほうこく						
書名	北陸新幹線関係文化財包蔵地調査報告（9）						
副書名	上梅沢遺跡・水橋金広・中馬場遺跡・北代一萬歩遺跡・吳羽富田町遺跡・小竹貝塚・HS-04・白石遺跡・愛宕遺跡・安吉遺跡・棚田遺跡・本江大坪1遺跡・下佐野遺跡・HS-18（源訪）遺跡・辻南遺跡・HS-19（藏野町東）遺跡・HS-20（藏野町）遺跡・小竹B遺跡・HS-21（駒方南）遺跡・下老子篠川遺跡・江尻遺跡・間賀大塗遺跡・五社条里遺跡・HS-22（水牧）遺跡・HS-23遺跡						
シリーズ名	富山県文化振興財團理藏文化財発掘調査報告						
シリーズ番号	第43集						
編著者名	青山晃 細辯真澄 町田賢一						
編集機関	財團法人富山県文化振興財團 埋蔵文化財調査事務所						
所在地	〒930-0887 富山県富山市五福4384番1号 TEL076-442-4229						
発行年月日	西暦2009年3月31日						
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
かみのわせ いのせ 上梅沢遺跡	かみのわせ いのせ 滑川市上梅沢	16206	051	36°44'33" 21°1"	20080714・ 20080715	39	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
みずほしまねの なかまほ ば い せ 水橋金広・中馬場遺跡	みずほしまねの なかまほ ば い せ 富山市水橋金広・中馬場	16201	251	36°43'1" 18°35"	20081113	80	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
きただいへいちまん ほ い せ 北代一萬歩遺跡	きただいへいちまん ほ い せ 富山市北代	16201	175	36°42'58" 10°60"	20081201	50	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
くれは くみ た まち いせ 吳羽富田町遺跡	くれは くみ た まち いせ 富山市吳羽	16201	160	36°42'59" 11°4"	20081204	11	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
こ こづかわいづか 小竹貝塚	こ こづかわいづか 富山市小竹町	16201	105	36°43'16" 10°5"	20081210	42	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
といへだいぜいひんくわ HS-04遺跡	といへだいぜいひんくわ 射水市鶴塚	16381	004	36°43'36" 6°59"	20081114～ 20081201・ 1203・1217	1,143	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
しらゆ い せ 白石遺跡	しらゆ い せ 射水市白石	16381	006	36°43'35" 7°22"	20081202	63	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
あかね い せ 安岩遺跡	あかね い せ 射水市安岩	16381	002	36°43'39" 5°54"	20081205～ 20081209	648	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
かわこ い せ 安吉遺跡	かわこ い せ 射水市安吉	16382	050	36°43'19" 4°16"	20081202・ 20081203	225	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
たなだ い せ 棚田遺跡	たなだ い せ 射水市棚田	16382	049	36°43'9" 3°43"	20081125	180	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
ほんごうだいへいぱち い せ 本江大坪1遺跡	ほんごうだいへいぱち い せ 射水市大門本江	16382	054	36°43'9" 3°39"	20081126～ 20081201	261	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
しも い せ 下佐野遺跡	しも い せ 高岡市下佐野	16202	151	36°43'34" 59°33"	20081119・ 20081204	86	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
といへだいせきひなまくわ HS-18遺跡	といへだいせきひなまくわ 高岡市野	16202	249	36°43'22" 59°12"	20081118・ 20081119・ 20081211	155	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
いたかわ い せ 辻南遺跡	いたかわ い せ 高岡市辻	16202	182	36°43'17" 58°57"	20081028～ 20081030	218	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
といへだいせきひなまくわ HS-19遺跡	といへだいせきひなまくわ 高岡市藏野町	16202	250	36°43'11" 58°37"	20081030・ 20081104	108	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在 地	コード		北緯 市町村	東経 道路番号	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	道路番号					
HS-20遺跡	高岡市野町	16202	251	36° 43° 5°	136° 58° 22°	20081104~ 20081107	516	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
小竹B遺跡	高岡市小竹	16202	178	36° 43° 56°	136° 58° 1°	20081107~ 20081110	200	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
HS-21遺跡	高岡市駒町	16202	252	36° 43° 45°	136° 57° 32°	20081111~ 20081114	291	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
下老子箇川遺跡	高岡市福岡町二歩二段	16202	422072	36° 42° 21°	136° 56° 51°	20080911~ 20080912~ 20081205	135	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
江尻遺跡	高岡市福岡町江尻	16202	422073	36° 41° 48°	136° 56° 24°	20081021~ 20081022	171	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
開黙大滝遺跡	小矢部市五社	16202	422079	36° 41° 13°	136° 55° 34°	20081020	110	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
五社遺跡	小矢部市五社	16209	170	36° 40° 58°	136° 54° 58°	20081006~ 20081007~ 20081020	155	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
五社条里遺跡	小矢部市五社	16209	183	36° 40° 53°	136° 55° 10°	20081002	198	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
HS-22遺跡	小矢部市水牧	16209	203	36° 40° 20°	136° 53° 32°	20081008~ 20081014~ 20081017	414	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
HS-23遺跡	小矢部市水牧	16209	204	36° 40° 14°	136° 53° 9°	20081015~ 20081017~ 20081027	464	北陸新幹線建設に伴う 包蔵地確認調査
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
上梅沢遺跡	集落	弥生~古墳・中世	溝	弥生土器・土師器・越中瀬戸	遺構・遺物を確認			
木橋金広・中馬場遺跡	集落	中世	溝・土坑	珠洲・越中瀬戸・伊万里	遺構・遺物を確認			
北代一歩遺跡	—	—	—	—	本調査を必要としない			
呉羽富田町遺跡	—	—	—	土師器	本調査を必要としない			
小竹貝塚	集落	縄文	谷	縄文土器	遺構・遺物を確認			
HS-04・白石遺跡	集落	古墳・中世	溝・土坑	土師器・伊万里・越中瀬戸	遺構・遺物を確認。HS-04遺跡の一部を大江遺跡とする			
愛宕遺跡	集落	弥生~古代	溝・土坑	弥生土器・土師器・須恵器	遺構・遺物を確認			
安吉遺跡	集落	中世	溝・土坑	珠洲・瀬戸美濃・越中瀬戸	遺構・遺物を確認			
棚田遺跡	集落	古代~中世	溝・土坑	土師器・唐津・越中瀬戸	遺構・遺物を確認			
本大坪I遺跡	集落	古代~中世	溝・土坑・柱穴	土師器	遺構・遺物を確認			
下佐野遺跡	集落	古代~中世	溝・土坑	土師器・珠洲	遺構・遺物を確認			
HS-18遺跡	集落	古代~中世	溝・土坑	漆器	遺構・遺物を確認、 ^{主に} 漆器 ^{を確認する}			
辻南遺跡	集落	古墳~中世	溝・土坑	土師器・須恵器	遺構・遺物を確認			
HS-19遺跡	集落	古墳~中世	溝・土坑	—	遺構を確認、 ^{主に} 瀬戸町東遺跡 ^{とする}			
HS-20遺跡	集落	中世	溝・土坑	珠洲	遺構・遺物を確認、 ^{主に} 瀬戸町東遺跡 ^{とする}			
小竹B遺跡	—	—	自然流路	—	本調査を必要としない			
HS-21遺跡	集落	中世	土坑	—	遺構を確認、駒方南遺跡 ^{とする}			
下老子箇川遺跡	集落	近世	土坑	越中瀬戸・近世陶磁器	遺構・遺物を確認			
江尻遺跡	集落	弥生・近世	溝・土坑	土師器・近世陶磁器	遺構・遺物を確認			
開黙大滝遺跡	集落	中世	溝・自然流路	瓦器	遺構・遺物を確認			
五社遺跡	集落	古代	溝・柱穴	土師器	遺構・遺物を確認			
五社条里遺跡	集落	古代~中世	溝・土坑	土師器	遺構・遺物を確認			
HS-22遺跡	集落	古代	溝・柱穴	土師器・須恵器	遺構・遺物を確認、水牧 ^{遺跡とする}			
HS-23遺跡	—	—	溝・土坑	—	本調査を必要としない			

富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第43集

北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告(9)

上梅沢遺跡・水橋金広・中馬場遺跡・北代一万歩遺跡・吳羽富田町遺跡・小竹貝塚
HS-04・白石遺跡・愛宕遺跡・安吉遺跡・棚田遺跡・本江大坪I遺跡・下佐野遺跡
HS-18（諫訪）遺跡・辻南遺跡・HS-19（戸野町東）遺跡・HS-20（戸野町）遺跡
小竹B遺跡・HS-21（駒方南）遺跡・下老子笠川遺跡・江尻遺跡・開闢大滝遺跡
五社遺跡・五社条里遺跡・HS-22（水牧）遺跡・HS-23遺跡

編集・発行 財団法人富山県文化振興財団

埋蔵文化財調査事務所

〒930-0887 富山市五福4384番1号

TEL 076-442-4229

発 行 日 2009（平成21）年3月31日

印 刷 前田印刷株式会社

〒939-8213 富山市黒瀬610-7

TEL 076-407-1282